東京女子高等師範學校内
日本幼稚園協會

幼兒の教育

主幹
堀七藏

第二十六卷　十一月號　第十一號

口繪、急行列車
幼稚園令の讀み方(つゞき)……倉橋惣三
幼兒教育に對する所感……田代順之
幼兒の辨當……青木醇一
柿……大岩金
童話、チユンチユク小雀……中村楠雄
ぬりゑ、柿……及川文子
遊戯、月……土川五郎
公園の朝……みどり

廣島高等師範學校教授 文學博士 久保良英先生新著

兒童研究所紀要 九卷

大正十一年定價四圓參拾錢 送料金拾八錢
洋綴・背皮・紙數一千百餘頁 全一冊 金六圓參拾錢 有八圓拾錢 餘拾錢

12 34 合輯 洋綴・背皮・紙數一千百餘頁 定價九圓五拾錢 送料五拾四錢
5 6 合輯 洋綴・背皮・紙數千貳百餘頁 定價拾圓五拾錢 送料五拾四錢
八卷 定價四圓參拾錢 送料金拾八錢

本研究所は歐米諸國が將來の國家を構成する兒童を心理學的生理學的に研究する爲巨額の國費を投じて吝まざる時我が國に一の其機關のなきを慨し、久保先生等同志の士が私財を投じて設立せられたる我が學界の最高權威である。現代教育學の根柢である我學界の一大金字塔である

九卷内容目次

第一 練習效果と兒童の年齢、性、學力との比較……文學博士 久保良英
第二 感化院收容兒童に關する醫學的調査の成績に就て……醫學博士 杉田直樹
第三 樺太に於けるアイヌ兒童と日本人兒童との比較……文學博士 久保良英
第四 恐怖症の精神分析例附兒童盲愛の惡影響に就て……醫學博士 新井昌平
第五 吃音の精神病理と精神分析療法並に家庭教育上の一考察……醫學博士 小峰茂三郎
第六 學齡兒童選奬に於ける檢査成績……文學博士 久保良英 小田正曉

◎讀者研究
一 四歳より六歳に至る兒童選奬に於ける身體檢査成績……阿部廣司 島田道隆
二 算術科教育的診斷の實際……那須純一郎
三 實驗觀察指導が兒童の精神活動に及ぼす影響に就て……宮田直次郎
四 身體的測定と知能の關係……松本久雄

◎海外新著論文抄錄……文學博士 久保良英

文學博士ドクトル 久保良英著

智能査定用具

ボール紙型箱入 一組參圓 送料拾八錢

智能の査定が手輕に出來る、兒童研究所紀要の實際的研究唯一の用具

文學博士 久保良英先生新著

實驗心理學精義

簡單なる行動篇

學界を最も有意義的に具體化せる一大金字塔

本書は實驗心理學が開拓した所又はせんとする所を弘く各種の行動の項目の下にその研究の方法と結果とを詳述した、就中實驗的結果の一致せぬもの又は全然相反するものは是等凡て未決の問題として讀者研究の材料に資しその進むべき道を明にして、そうして一方博士の獨斷專見を避けられたのである。特に編纂の方法は博士の體驗上斯學者の最も興味を感ずる樣の目的の兩者交互に說述されたが如き如何に博士が學に忠實なるかを物語るものである。此の周到なる用意は如實に本書の上に表現す。如此本書は懇切丁寧に現代の實驗心理學の新研究を學て一切發表したアツツーデートのものたる事は勿論應用的方面を出來る丈け詳述し特に兒童の心理學的研究に力を注ぎ實業方面に關するものも委く網羅した學校教育家、軍隊、工場管理者等苟も人を指導統督する士は勿論特に文檢受驗者の必讀研究を俟つ

菊判 全一冊 紙數八百頁 插畫貳百餘 定價金六圓 送料貳拾七錢

發行所 東京市牛込區東甲良町九番地 中文館書店 振替電話 東京牛込 三三八四 三三八二 七五番

賜本誌每號皇族殿下台覽

大八學習雜誌

學習指導研究會編輯

東京兩高等師範學校
廣島高等師範學校
奈良女子高等師範學校
府立中學校・女學校

各教官諸先生が毎號執筆されます。

——（毎月一回一日發行）——
趣味と學習を兼ねた雜誌！
あなたを優等生にする雜誌！
全國小學生間大評判雜誌！

男子幼稚園

◎男ー幼稚園と同じく四歳以上の女生の友、切抜貼込理科算術童話童謡繪の稽古等兒童の好伴（定價卅錢）

女子幼稚園

小學一年生

◎特に四歳以上の男生の友として編まれたもの、初めて理想の學習雜誌を見たと好評さる（定價卅錢）

小學二年生

◎一年生の人は全部お讀み下さい、學校といふものを理解させ好にさせ天分を助長さす良雜誌（定價卅五錢）

小學三年生

◎學課に彩色繪に讀物に光彩陸離。時間の經つのも忘れる。本誌讀者は全優等生。（定價卅五錢）

小學四年生

◎群小雜誌と選を異にし飽く迄も學習に主眼を置き自然に成績が優良ならしめる兒童の友（定價卅五錢）

小學五年生

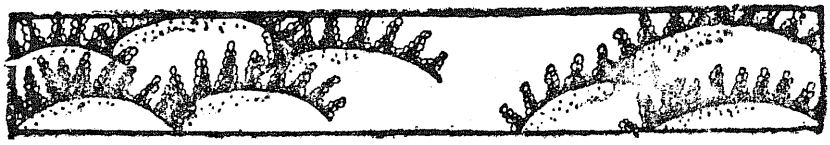
◎初等教育界の權威者が全部執筆せる好雜誌他にありや、難解の學課も直ちに氷解さる。（定價四十錢）

小學六年生

◎その人を見んとせばその讀む本を見よ！本誌の如き天下一の良雜誌の讀者は模範生と仰がる（定價卅五錢）

◎引續き本誌を愛讀せば中學校女學校の入學試驗も少しも恐しい事はない、諸君の救ひの神（定價四十錢）

發行所　東京市神田區表神保町六番地　小學館
振替　東京四五一七〇番　大阪一一〇五二番　仙臺六二三八番



日本幼稚園協會編輯幼兒の教育

會長　東京女子高等師範學校長　茨木清次郎

主幹　東京女子高等師範學校教授　堀七藏

贊助員

東京高師教授　巖谷秀雄
東京帝大醫科講師　醫博　乙竹岩造
東京高師教授　文博　大瀨甚太郎
慶應大學教授　醫博　唐澤光德
東洋幼稚園長　岸邊福雄
早蕨幼稚園長　久留島武彥
帝國教育會會長　文博　澤柳政太郎
東京高師教授　佐々木秀一
東京女子高師教授　文博　下田次郎
東京女子高師教授　菅原敎造
醫、文博　富士川游
東京市學務課長　藤井利譽
東京女子高師講師　藤五代策
長崎縣師範學校長　福士末之助
文博　谷本富

東洋大學教授　棚橋源太郎
東京府女子師範學校長　田子一民
東京女子高師囑託　高島平三郎
帝國教育會理事　龍山義亮
松江高等學校長　土川五郎
京都帝大教授　野口援太郎
文博　乘杉嘉壽
醫博　野上俊夫
東京女子高師教授　弘田長
文博　倉橋惣三
東京帝大教授　松村武雄
文博　松本亦太郎
奈良女子高師校長　槇山榮次
醫博　三田谷啓
奈良女高師附屬幼稚園主事　森川正雄
東京高等學校長　湯原元一
東京帝大教授　文博　吉田熊次
女子大學長　安井哲子

第二十七卷　幼兒の教育　第十一號

——（目　次）——

口繪、急行列車
幼稚園令の讀み方（つゞき）……倉橋惣三……二頁
幼兒教育に對する所感……田代順之……二〇頁
幼兒の辨當……青木醇一……二七頁
柿……大岩金……三三頁
ぬりゑ、柿……及川文子……三三頁
童話、チユンチユク小雀……中村楠雄……四三頁
遊戲、月……土川五郎……五〇頁
公園の朝……みどり……五三頁

東京女子高等師範學校敎授
同附屬高等女學校主事 倉橋惣三氏著

幼稚園雜草

◇四六判特製美本函入
◇定價金貳圓五拾錢
◇送料金拾八錢
◇紙數五百二十餘頁

東京市日本橋區大傳馬町二丁目
內田老鶴圃
振替東京一二二四六番
電話浪花一三三五番

最新刊

敎育の理論を說いた書は多い、方法を敎へた書は更に多い。しかし敎育の心を語つた書は少ない。とりわけて眞に幼兒の生活に觸れた書は更に少ない。

現代の日本が生んだ唯一の幼兒敎育の權威たる著者は、永くお茶の水の幼稚園の主事として令名嘖々たる人、本書は著者が多年幼兒の間に在つて體得した獨自の感想と考察とを述べて、幼兒の生活を中心とした人間敎育の眞意を味到せしめんが爲めに、敎育者と家庭の母とに贈つたものである。或は詩趣に充ちた感想文があり、敎育の理想國を描いた創作があり、或は著者の温容を彷彿せしむる講話があり紀行雜錄がある。豐かなる興味と深き感銘と淸き敎訓とは、そのまゝ著者の心より讀者の胸へ流れ渡つて盡きないものがあらう…………

◇本書内容目次◇

▼園丁雜感——▽我等の前途▽人間の偉大さ▽自然との一致▽日光の子ども▽國家のために▽子どものしもべ▽うるほひ▽まこと▽一點の嚴蕭味▽一人の尊嚴▽布袋讃▽親しむ心▽新らしみ▽お正月▽寒風▽春が來る▽外へ外へ▽學ぶべき春よ▽ころもがへ▽雨の日▽六月の野へ▽うるほへ▽夏やすみ後▽秋が來た▽幼稚園遊跡に立ちて▽お茶の水に歸る▽この春▽夏が來ました▽大災と幼兒敎育▽行啓を迎へまつりて。

▼森の幼稚園——1 [illegible]の先生 2 がーデン主義 3 園參主任 4 笑がほの人 5 詩の會 6 應接間 7 研究會 8 新茶

▼▽夏子。

▼幼稚園の生活——幼稚園は如何なる處か▽幼稚園の此頃▽新入園兒を迎へて▽幼稚園を終了する兒童達に▽お子さんを初て幼稚園に送る方に▽家庭と幼稚園▽幼稚園の朝▽個人對話の敎育價値▽園外保育▽砂場の屋根▽恩物に就て▽幼兒の舞踊に就て▽本眞劍▽斯く育てたしと思ふこと▽敎育問答。

▼幼兒敎育者——幼稚園の保姆▽保姆その人▽何を以て導かんとするや▽幼兒敎育の第一義▽我等は幼兒を尊重する人でなければならぬ▽小どもから學べよ▽幼稚園敎育の積極性▽新たに考へよ▽斯くてまた暮れ行く▽機嫌のよしあし▽途上▽フレーベル傳想感▽フレーベルと婦人▽ブロー女史を憶ふにつけて△フレーベルの日に。

▼幼兒敎育小觀——幼兒敎育の新目標▽幼兒敎育の特色▽フレーベル主義の新習▽幼稚園と小學校との連絡▽高等女學校と幼稚園▽幼稚園の副次的任務▽英國の保育學校▽シカゴ及コロンビヤ大學の幼稚園▽ドーナー・グローブの幼稚園。(目次終り)

◇幼兒に聽かせるお話

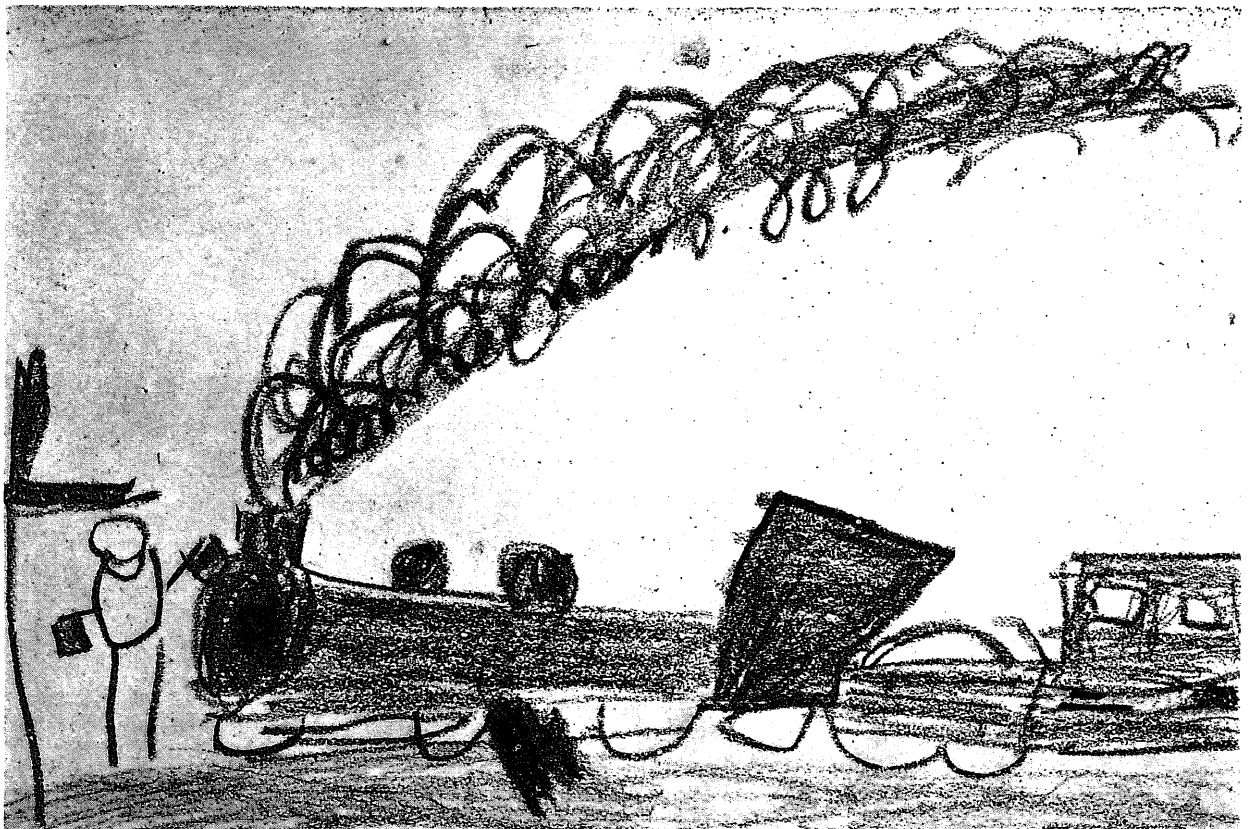
倉橋惣三先生序
日本幼稚園協會編

定價參圓八拾錢
送料拾八錢

◇幼稚園保育要目

萬國幼稚園協會案
日本幼稚園協會譯
倉橋惣三先生序

定價壹圓五拾錢
送料拾貳錢



非　出　米　夫（才六）　　急　行　列　車

第二十六卷　幼兒の教育　第十一號

大正十五年十一月

一、教育で家庭教育位重要なものはありません。家庭教育の良否は實に人一生を支配し國家の發展を左右するのであります。最近の學術は益々家庭教育の重大なる使命を立證し近時の社會現象は善良なる家庭教育の必要を痛感せしめてゐます。

一、家庭教育の短を補ひ幼兒の心身を充分に發達せしめ將來受くべき學校教育の基礎を築くものは幼稚園教育であります。幼稚園教育の重視すべきことは天下一人も異議がないのであります。

一、幼兒の教育は本邦唯一の幼稚園教育に關する發表機關であります。而してまた本邦唯一の家庭教育雜誌であります。

一、幼兒の教育は幼兒の教育、卽ち家庭に於ける教育と幼稚園に於ける教育、更に小學校初學年教育に關する事項は細大となく網羅し、以て家庭教育の向上を計り、幼稚園教育の進步發展を期する大抱負をもつて產れたもので有ります。

幼稚園令の讀み方（承前）

——講演大要筆記——

倉橋惣三

二、保育項目に關する事項

次に所謂保育項目に關する問題に移ります。保育項目は令の施行規則によりますと遊戯、唱歌、觀察談話、手技等とあつて五つの事がきめられてあります。保育項目を斯樣に定めるつていふことに付いて論があるのです。幼稚園から保育項目をとつてしまへと云ふ人があり、これと全然反對にもつと細かに決めなければならぬと云ふ人があります。矛盾の樣に見えますが、何處から出るかといふに前者は新教育主義から、後者は實際からの論であります。何をしてよいか分らぬ、或は自分では分つて居るとしても始めて幼稚園教育にたずさわる人のためには相當に詳しく示さなければ分らぬではないか。進歩主義、自由主義は氣持ちよい話であるが實際として左うはいかぬと後者は云ふのです。今日の幼稚園は隨分いろ〳〵のがある。幼稚園に於て殆んど、何もしないといふ樣のもある、朝からふら〳〵して居ると言つて心配性の人が見て案じたりします。そこで、細い規定を設けなければいかんといふのです。

第三の議論はこの二者を妥協したといふ譯ではありませんが、幼稚園ではそんなに細かに規定しな

くてもよい、何か大體の寄り所だけがいる。其の點に於いて我國の五つばかりの規定は大傑作であるといふのです。小學校が各課程の時間數に至るまで規定してあるに對して、大體主義を謳歌する者もあります。この三つの考へは夫々の感ずる立場から偶然に起つて居るので、別に比較論究する必要はありませんが、新令によつて此の問題を如何に取扱ふべきか、その點を如何にすれば良いかは大切な問題として、我々の前に置かれてあるのであります。一體教育令といふものに就て、外國の實際を見ますと、殊にイギリス・アメリカのは書き方も異つてゐるのですが、我が國の幼稚園令は法律的に扱はれて居るから要點だけが擧げられて說明的ではない。從つて一般の法規と形式が似て居りますのに反して、外國のは說明的であります。更に別に註釋を要するといふ風の書き方ではない。從つて其の中の言葉はいち〳〵法令的嚴格さを持ちません。幼兒は遊戯が好きだからさせたらば良いではないかといふ風で、しなくてはならぬ、是非斯々せよとは書いてありません。我國のは法律文句できちんとして居るから究屈に響き過ぎて困つて來ます。尙、近來の外國の傾向を申しますと幼稚園の教育は生活教育であるから時間割によつて支配されるものではない。學校の教科を受けるために幼稚園に來るのではない。生活其の者を豐富にして行かうとするのである。生活の中には短い單なる言葉では言ひ出せぬ重要なものが多くある。それを幾つかの言葉に規定することは不可能であるといふ風です。一例を申上げますと、コロンビアでミス・ヒルが主として唱へて居るアクティビティー、カリグラムは幼稚園に來て其の中に生活する

ことを尊重する立場から出て居ります。幼稚園に來るのは遊戯・唱歌をしに來る即ち極端にいへばアクティビティーではなくて課業を受けに來る。課業を受けるためには室、机、庭、設備の整頓も必要になる。課業が主で手段として幼稚園の生活が必要になるといふ樣な從來の考へ方に對して、アクティビティー、カリグラムは反對を述べて居ります。幼稚園に來ることが第一の目的です。家庭にあるといふことは寢るために、或は讀書のためにあるでせうか。家庭に在るその事が第一義であります樣に、幼稚園も、そこに來て生活することを以て第一義とするのであります。その中で閑があれば他の目的のために活動をするので、幼稚園は幼兒が其れ等の仕事をするために來るのでは絶對にないとの主張です。それで實際生活を本體として幼稚園の一日をきめて行かうとします。私達は昔、モンテッソリーの本の中の繪で幼兒がスープを運んで居るのを見て感心したのでした。これは作法の訓練をして居るに違ひないと考へてやうやく得心したものでした。が、それは作法の訓練ではないのです。友達が食事をして居るからする丈けのことではありませんか。私がコロンビアに在りました時に丁度朝の靜かな時間に幼稚園に行つて見ると、幼兒達が園内の用事をして居りました。『やつてますね』つて挨拶致しますと、『つまり、これを原則的に行ふのに何うしたら良いかを考へてる所です』とヒル女史が答へられました。

斯んな傾向が今日の新しい傾向としますと、幼稚園の項目は『…等トス』では變なものになる。項目をきちんときめることは現在の考へには何となく古くさう考へられるから、もつと思ひ切つた言ひ方は

なかろうかと思はざるを得ない譯です。ところで、私は大體斯んな風に考へて居ます。卽ち幼稚園の生活は幼兒の遊びの生活を本體として實際生活と藝術生活を子供の發達に適應してさせてゆけばよいではないかといふのです。ところが、大抵の人はこれでは物足りないので、施行規則の第二に見る通りになつた譯でせう。

斯樣に決するに先立ち、文部省は全國に如何なる保育項目を行つて居るかを問ひ合せました。何をして居るかと問はれると困ることでなか〳〵纏つて書けない。人形の着物も洗はせる。草も取らせると云ふ樣な事を書き表はすことは出來ぬ。しかし兎に角現在では我國の多くの幼稚園でしてゐることが、遊戲、唱歌、談話、手技の四項目に限定されては居ない。もつと豐富に行はれてゐることが分りましたので『…等トス』の『等』の字が入れられたのであろうかとも考へられます。舊規定では四つ以外の事はよけいな事として扱はれて來たのです。人形芝居をする、活動寫眞をする。嚴格なる幼兒敎育者はこれを以て脫線と思つたかも知れない。卽ち、『等』とは四つ以外を行ひ得ることを表はしたものであります。ですから『等』の字は我々の活用すべきものであります。

○

第二の點は同じ調査によつて、幼稚園は色んな事をやつて居るといふことが今更の樣に當局に分りました。如何なる事かと調べたところ、それは觀察でありました。觀察に付きましては前から一般の論も

あつたことで、其の趨勢を眺めますと二潮流を認められます。一は、日本人は理科的思想が甚だ少ない、何れかといへば藝術的であつて理科的教養が少ない。といふことが、教育全體、殊に兒童教育に於て、十五六年前に盛に唱へられました。その後中等教育では理科が非常に發達しました。實驗室が設けられる、補助費は出されるといふ風に。小學校に於ても亦其の考へを深めました。幼兒教育にも自然科學、自然觀察の項目を加へる必要があるといふので主として理科教育の立場からこの議論が出ます。今一つの論は、それよりはずつと後に幼稚園教育の中に起つたのであります。近來の教育は幼兒をして自ら發達し、自ら作らせる傾向、即ち創作的であります。この主義ばかりではいけないといふ二つの考慮がある。其の一は、一昨日述べました訓練の上から矢張り外からは善い事はさせ、惡いことはよさせる所の働きが大切であるといふので、其の二は創作の他に外界に卽した忠實な生活もさせなければならない。人間生活には二面がある。外から受けとる——小學校的にいへば學び來る——生活と、內から生み出す生活とである。因つて外界を受け取る教育も與へなければならない。といふ所から出る議論であります。其處で、遊戲、談話、唱歌、手技の外にこれに必要な項目を加へなければならない。從來の項目のものは餘程創造的に屬するところが多いのです。斯う云ふ意味から觀察の言葉が加ることになりました。ところが、こゝに觀察が新しく加へられやうとした時に、この言葉の意味を如何に解釋すべきか。若し誤り解する時は、現に、心配して居られる人は施行規則の第一條の中の『…會得シ難キ事項ヲ授ケ又ハ過

度ノ業ヲナサシムルコトヲ得ス』この文の裏許り考へて、授けてはいけないのか、或事項を授けてはいけないのかと迷つてゐる人もあるのです。小學校では授けるといふ事は既に是認されて居りますが、授けるといふことが始めから許されて居ない幼稚園ではこれを何う解釋すればよいか、この言葉が若し誤り解されたなら餘程幼稚園の生活の根本に關係して來ます。それで多くの人がこの解釋の如何を心配するのです。

最も新しい意味に於て、從來の觀察が持つた意味を離れて、幼稚園の觀察を良く書いてあるのが萬國幼稚園協會の著した「幼稚園保育要目」で、新しい傾向を代表して居ります。其の扱つた主旨は製作、藝術・言語・文學・遊戯とゲーム・音樂の要目を說く前に初めの方に幼稚園に取り入れ來るべき主材として述べられてあります。その內容は大別しますと生活行事と自然科學とで、生活行事とは此の人生、卽ち家庭とか、幼稚園とか社會で營む人間生活に屬する凡べての問題をくるめて名付けたもの、自然科學とは自然研究を盡く含むものであります。幼稚園に取り入れ來べき主材は人間社會の生活事實と自然界の事實とであるべきです、と。こゝに一寸大切な事があるのです。この主材は幼稚園で取扱ふべきものを擧げたもので、幼稚園がこれをするかしないかは問題にして居りません。小學校の敎科、敎材とは違ふのであります。保育要目の中で見ます製作・藝術・言語等は幼兒の爲る仕事の名であつて、假りに幼稚園の時間割を作らうとすれば何時——製作・何時——音樂・何時——ゲームと出來得るが、これに對

して生活行事が其の形式に入るものではない。この形式は萬國幼稚園協會が餘程考へてありまして、幼稚園に取り扱はれる内容を主材として先に決めて居るわけであります。萬國幼稚園協會できめて居るのは製作・藝術・言語・文學・遊戯とゲーム・音樂でありますから一般的言葉を使つてあります。我國では學校教科で用ひられて居る言葉ですから主材は教材じみて來ます。それならば、幼稚園でする仕事といふ意味から離れて居るかといふにそうではない。上述の要目の中でも主材として取扱ふべきものでありますが、時には、その自然研究、生活行事を特に主材として子供に與へるためにとる仕事が必要であります。たとへばドイツの或る幼稚園では午後の時間は殆んど散歩になつて居る、散歩は何う考へても今まで考へた仕事と並ぶべきものでない、當り前のことで普通生活に入つて居るものを持ち出した感があり、特に時間を設けなくとも、一寸した時間に爲される。特に課業の形でさせなくとも目的は達せられると見られますが、矢張り其の意義を徹底させるやり方には特に時間を設けるのであります。特別な目的の時間を取るのは便利とも云へる。卽ち製作・唱歌・談話・遊戯中凡べての仕事の中に生活行事、自然研究はなされますが、純粹にこれだけを主とするための特別の時間の必要も起るのであります。これを我國の保育項目に持ち來つて考へますに心附かるゝことの第一は遊戯・唱歌・談話・手技は幼稚園で幼兒のなす生活形式の名であります。遊戯といふ語は目的を表はしては居ない。如何なる効果を持ち來るかは別問題の生活形式であります。唱歌・談話・手技盡く然りであります。其の中にいろ〳〵目的も持

たれては居りますが、兎に角形式に對する名であります。これに對して觀察は果してこれ等と並ぶべきものでせうか。或る一定の生活形式の名でせうか。生活形式よりも內容或は目的を表はす名であります。從來の小學校や幼稚園の古いところで使つた觀察は生活形式につけたものでしたが、先入見を除き、常識的には、觀察といふ語は本來が動詞であります。觀察する卽ち、花を觀る、虫を、電車を、觀る、それ等の個々物を觀て居る時の働きの言葉であります。遊戲・唱歌は特に遊戲らしく、唱歌らしく爲さなければ出來ませぬ、それと觀察とは少し違ふと見られる。生活形式を改める必要はない。外界を忠實に受け取つて行くのなれば手技の中でも、唱歌の中でも觀察は出來ます。唱歌の中で手技をすれば二つの生活形式をすることになりますが、觀察は生活目的であります。生活活動の名を表はすものだといへます。その意味で考へるとスラ〳〵と五項目が並んで居るのが變な感がします。異種類がまじつた樣に感じます。これを實際問題に持つて來ますと、觀察は項目としては他の四項目と並んで居りますが、敢へて獨立の生活形式として特殊的に取扱はなくとも出來るといへる、外から見て今何をして居るかといふことが分る性質が他の四項目にはあります。觀察はそれとは違ひ、何時して居るか、今から觀察をしますでなくてもよいのであります。凡ゆる機會を利用することを怠つて居ないならば特に時間は必ずしもなくてよい。

他の生活形式中で觀察し得るといふのは幼兒の生活は活動によつて觀察するものであるからでありま

す。觀察は觀て察するとあり、感覺を用ひてするのが大人の觀察でありますが、幼兒の場合では必ず活動による。幼兒教育は活動によるべしとは前から言はれて居ります。フレーベル以來誰でも論者は一樣に唱へる事であります。然しながら活動による教育とは何でありませう。活動によつて發表、創作することだけでせうか。活動とは要するに筋肉の變化であるから、吾々大人ならば想像を馳せて樂しむでありませうが、幼兒は直ぐに筋肉の活動に移ります。頭の中で組み立てゝ後作るのではない。幼兒は決して案が出來たからどれ作つて見ようつていふようなことはない、作りながら考へて行くのが特徴であります。吾々大人仲間にだつてやつて見なければ考へられぬ人も稀にはあります。今私は外界を受取るのもこの筋肉活動によることを言はうとして居るのですが、極端な例をいひますと、人が蹴つて居る。見て御出でと言つても子供は蹴り出す。歌ひ出す。何故かといふに耳、運動感覺、運動筋肉活動を以て見聞くのであります。幼兒といへども靜かに見、聞くこともありますが、活動による方が原則的であります。よつて觀察は外界を持ち來る活動目的だから、色んな生活形式中にも出來るわけであります。

今度は別な方向から考へて見ます。從來の創作、發表主義の教育は只幼兒の精神內容から產み出させることにむだに骨折つたのであります。ゐさを與へることが足りなかつたのです。これではいかぬと考へた時に觀察を幼稚園の特別な任務としてあげたのです。今までの幼稚園は觀察しようともして居ない。相變らずの室の壁・幕、實に鈍いものです。何かの拍子でみゝずが見つかる、ふとして小鳥が迷ひ込む

と年に一度の觀察が出來やうといふものです。これに對して受け取り得る機會を幼稚園が提出しなければならぬとするのが觀察が特に設けられた所以であります。この要求のためには幼稚園に子供の受け取り得るものが具はりさへすればよい。考へる餘地のない程何でもよい。不適當な物を持ち來る筈はないとして。緣日からコマネズミを持ち來るもよかろうし、鳥を飼ふも、花壇を作るも結構です、獨逸のフレーベル・ペスタロッチ・ハウスの戰前のこの方面の仕事は實に豐富でした。私の參りました時は戰後で金がないから出來ないと云つてたのですけれども、戰前には牛・羊・豚を飼ひ、牛乳をしぼつたりして居たものでした。但し觀察の時間は特定してありませんでした。觀察どころではないのです。子供は豚が飼つてあるので豚遊びをする。牛小屋作りもする。農夫あそびもするといふ工合でした。幼稚園が外界に接し得る機會を豐富にすればよいのです。幼稚園内に持たれぬものは出掛けて行けばよい。園外保育であります。家庭教育に熱心な人は子供を机にしばり付け、時に參考として外に連れ出すのを見受けますが、早教育で有名なストーナ婦人は子供には教へずしてしきりに外に散歩に連れ出たそうです。外に連れ出す卽ち園外保育となりますと、このための特定の時間をとる。保育時間内に特設する必要が起ります。掛圖を、顯微鏡をといふ學究的理科教授とは違ひます。重要なる目的は外界に對する興味を增進すること、起すことにあるのです。興味は多少食べさせてやらなければならない。興味を感じる本能を持つらしいでは興味は成長して來ない。今日の幼兒の興味は食はず嫌ひの感がある。食べさせて見ないから食

はず慊ひになるのです。都會の子供はあの炎天下の街路に働く撒水夫に興味を感じない樣です。人間現象に就いては今日興味を持たなく見えるのであります。或る人は幼兒は人間生活の意味に興味を持たぬといひますが、先づ少しづゝ與へることを努めなければならない。先生が食べたことがないから子供まで食はず慊ひにしてしまふ。先づ經驗させてみなければなりません。經驗は知識、概念ではありません、必ずしも花や、蛙を、分解、解剖する理解的知識でありません。その經驗を主體にして、それを豐富に正確にあらしめる樣に導けばよいのです。斯んな事で大體觀察は何んな風なものか、何んなではないかゝお分りかと思ひます。さて觀察を行ふについて如何なる計畫を立てゝゆくか。觀察の目的本來の性質は大體前述でよいとして計畫としては何うするかの問題であります。先づ第一に考へる問題は何を觀察させるか、即ち觀察の內容でありますが、昨日考へました樣に子供が自然に觸れてくるものでよいとするならばそれでよい。偶然の結果に任せるといふならばそれでよい。然し偶然のまゝに任すならば全體として甚だ內容的には種類少くなる。田舍のやうに自然物の多い所は良いが、都會では偶然の結果に信賴するわけにはいかぬ。貧弱ならずとしても內容が偏するかも知れない。今日の都會幼稚園では子供の觀察內容が少いことから提出されたのですから計畫的に立案しなければなりません。一は自然物を計畫立てるとすれば自然現象を與へるにつき、一種の學問的立場からこの種の次にはこれ、といふ式に知識上に偏することがないのが一の立場となります。小學校の理科教科書が大體斯樣になつて居ります。今一

つの立場は全然それにはよらず、幼兒の生活に近いものを選ぶものであります。其の幼兒の住つて居る所では多少偏した自然になつても仕方がない。學問的完成を期するものでないから興味中心的にやる。この二つの立場を幼稚園で如何に考慮するかは一應考慮の要がある。この問題に對しては大體としては興味中心主義になる方がよい。小學校の理科教授から選擇して同じ物をえらぶにしても興味を中心に子供に近いものをえらぶ、子供の經驗内に近いものを。そんならば全然學問的見地に注意をおかぬかといふに、先生自身の細かい注意の中におくべきであります。只學問的立場を本來とし、第一義として興味を第二におくことは幼稚園では不適當であります。

次は幼兒に如何なる物を與へるべきか、先生はそれに對して準備を持つて居るか、即ち觀察の材料選擇であります、子供の環境に近く興味に觸れてゆくことを時間的にいへば季節といふことであります。小學校理科でもこれを入れてある。この考へから限定されるものがあります。各幼稚園は其の所在と季節の移り變りを基として材料を配列しなければなりません。個々の幼稚園自身の立案を持たなければなりません。自分の幼稚園を土臺として適當なプラグラムを立てる。よその案を其のまゝ持つて來ることは出來ない。

次の問題はどの程度に觀察させるかといふことになる。理科教授では何れがやさしい、六ッかしいから何れの次に來るべきといふことが考へられる問題でありますが、幼稚園ではやさしい、六ッかしいの

程度上の差別は餘りない。自然經驗を主體として考へてゆく時は其の事は餘り考へる必要がない。觀察させ方の程度は問題にならぬといへると思ひます。

觀察のさせ方の問題は昨日述べた所でお分りのことゝ思ひますが、それを實際的な言葉で總括しますと、先づ大體は幼兒と觀察の對象物が交渉して居る關係が持ち度いのであります。純粹理科の觀察は客觀的態度でありますが、幼稚園では兩者の交渉を重んじて行き度いのであります、觀察が主ですから勿論正確を必要としますが、それより大切なのは、生活交渉だと思ふのです。此處から色んな問題が起るのです。一輪の花を觀察するにしても一輪づゝつみとつて分配する仕方は好ましくないのです。植木鉢のまゝ、花壇のまゝに、花に對する親しみを持つてやり度いのです。本當の生きて居る自然から抽象的にならない樣に、つとめて具體的の狀態でやり度いのです。木の葉を觀察させるに豫め用意してあつた箱の中から先生が分ち與へるのでなく、一緒に庭に出て落葉を拾ひ集めて觀度いものです。子供の生活の中で觀察させ度いのです。或は觀察は後廻しにして、人間的に自然との交渉生活を營ませて、具體の經驗中に色・形・全體から部分へと觀察させる。適當に分解させるのであります。幼稚園の觀察のさせ方は理科的でなくていはゞ園藝的てあり度い位です。花壇・植物と交渉して居る中に個々についてよく觀てゆくのが園藝家の態度であります。

次に觀察のために各幼稚園が實際何んなに計畫して行くかの中心問題に移ります。各幼稚園で綿密な

觀察の暦を作ることが必要であります。吾々自身が注意するために出來るだけ綿密に作るがよい。拔きさしのならぬいわゆる細目でない。先生の參考のための暦であります。作つたからとて遵奉しなければならぬといふことはないのですから。其の次にはその暦の時間的按配でありますが、これはまだ研究調査されて居りません。小學校ではちやんと配當されて居ります。幼稚園でも其の要がないことはない、大いにあります。基礎ある研究はまだ出來て居ませんけれども大體斯んなに見られると思ふ。外國の幼稚園は大體の計畫だけを立てゝおきます。幼稚園が社會的觀察の機會を得るには午後の時間が多くなります。午後の時間は觀察に全部提供せられてもいゝ位かと思ひます。相當に觀察に時間を與へて特に觀察のために計畫した時間を取つた方が適當だと思ひます。新令による觀察は自然界のみに限つて居ない。自然界及び人事界についてなさしむとはつきり書かれてある。それで次は人事界の觀察の問題ですが、材料となるべきものは社會で行はれて居るものならば何でもよい。監獄訪問などはいらないと思ひますが。けれ共何でもよい中に大體分類すれば人事界は家庭、幼稚園、社會になるから何れにも偏しないやうに心掛ける必要がある。吾が國では從來家庭生活中心であつたからこれを幼稚園・社會にまで擴げることが要求されて居ります。殊に私の注意しますことは今日の幼稚園が單純なる個人的生活でなく、社會的生活を十分觀察せしめる要あることです。厚紙細工で何でも出來ます。お座敷でも、お家でも。けれども社會的に興味を向けたい今では、ポストや交番を作ることを望みます。社會的奉仕の概念論を持

ち出す必要はありません。持ち出しても子供には受け取れませんが、人事界に勉めて接近せしめるのであります。先生が仲立ちになつて觸れさせるのであります。客觀的に眺めて居る冷淡な態度でなしに、自分達にとつて有り難い。御苦勞樣といふ感情的交渉を持たせることが必要であります。これは觀察としては別に言はれて居る事ではありませんが、人形中心保育に他なりません。人形を中心にして感情の交渉を營ませるのであります。

人事現象にも暦をつくる必要があります。電車・自動車は季節にお構ひなく何時もありますが、年中行事や季節ものゝ氷屋さん。水まきさんがあるのですから大切です。又、園外に連れ出すことも必要になつて來ます。全體が出るとなると隨分困難が起きます。現在未だ連れ出し方の研究が足りません。如何に小分けして行へばよいかは考究を要するものであります。

斯ういふ風にして行つてゆくのでありますが、以上をまとめますと、觀察といふことは其の目的から言へば特に時間を設け、特別な仕事をすべきものではない。凡ゆる場合に觀察の目的を適應してゆくことが必要であると同時に、其の目的のために特に時間を提供することも大切である。つまり觀察には廣狹二つの場合が考へられるのでありました。

第二の保育項目に關する問題は觀察の他は新らしいものではありませんからこれで終つておきまして第三の幼稚園の社會的機能に移ります。

三、幼稚園の社會的機能に關する事項

新幼稚園令の著しい特色の一は社會的職能を發輝した點であります。從來の幼稚園は必ずしもそれから離れたのではありませんが、實際としては矢張り保育所や托兒所と異つて居りました。貴族的ではないまでも有産家庭のものでした。元來幼稚園そのものが左うあるわけではないのですが我國で格別斯樣になつたのです。幼稚園といふものが出來た由來は御承知の通りフレーベルの敎育的考に發して居ります。斯んなに自發活動をして居るのだから此の時代から敎育は始められなければならぬといふ學問的な立場から幼稚園が生まれました。近世に於ては、或は人口問題から或は工場制度から幼兒死亡の高率問題が八釜しくなつて、敎育的立場でなく、生活的・實際的・現實的な保育問題が生れて來ました。これが保育所、托兒所であります。兩者は區別がつきました。けれども、誰が考へても分ります樣に敎育的意味における幼兒敎育の心は其の子供が如何なる階級であるかに關らず適用される。凡ゆる保育所・托兒所は幼兒である以上は、敎育的に取扱ふべきものであります。當り前のやうでありますが、つまり幼稚園を必要に應じては所謂細民地區までも持つて行く、生活に忙しい親の居る地區に持つて行くといふ事は、あの子達が不完全な生活をしてゐるのを哀れむためではない。社會的合理性に於て持つて行かずにはゐられぬといふのであります。幼稚園の名によつて社會事業までしたといふのではなく、幼兒が一人

でもそこに居る以上幼兒に適した教育をせられる事を要求して居るのであるから、良家の子供から貧しい忙しい家の子供の範圍にまですゝんで行くといふのであります。幼稚園の名によつて社會事業を始めたのではない。要するに幼兒の榮養、衣服・睡眠のみが氣になる人は矢張り普通の社會事業家であつて幼兒教育者ではないことになります。

其の次に實際的の事として起つて來るのは、幼稚園が社會的になつたゝめに將來において我々の前に來る幼兒の中には今まで幼稚園が家庭に向つて要求した事をなし得ない幼兒があることがありますが、幼稚園は家庭教育を補ふが故に、家を本體として居るが故に、家に對して我々は色々要求して居るのであります。私の考へとしては幼稚園が家庭的世話をする事はいけなくてむしろ家庭に對して注意をしたい。家が經濟的に餘裕のある時は幼稚園は家庭に向つて要求し、刺戟するものであると思ひます。幼稚園が社會的意味に手を擴げて來た場合には、不完全な家庭生活を以て我々の所に來ますから幼稚園の施設は餘程變らざるを得ません。新令は必要によつては保育時間を伸すことが出來る樣になつて居ります。母親の都合によつては朝六時から夕方の五時までも預らねばならぬ。斯うなつた時には如何に其の子供が生活するかは考へねばならない。或は設備上についても浴場が必要になつたり、食事の備も亦要る。新令によれば必要に應じて三才以下でも收容し得る事になつて居ります。イギリスのデー・ナーセリー・では生後九ケ月を限度として居りますが、斯んな風にもなれば餘程變つて來ます。滿三才以下の子を預

るとなれば保姆の外に適當なる守りを必要とします。純粋の教育者の他に子供の世話をする者を必要とします。新令の意義における專門家的の考からでは滿三才以下の子を入れるには如何なる施設を要するかは細かい考へが必要であります。

それからこれが實現に當りまして吾々自身が左樣な家庭に對して十分に了解を要する。同情ではありません。何が故にあの貧しい家・忙しい家・忙しい母・あの細民地區を作つてゐるのであらうかを了解しなければならない。教育は其の子供が如何なる社會生活に居るかを問題にしなかつたのでありますが、幼兒教育は其の子供の生活に對する十分な理解を要します。これには現代社會組織から來る十分な理由があるのであります。斯う云ふ事を理解すると本當の意味において幼兒に對する適當な態度が出てまゐります。家庭教育を補ふとは家庭教育の何處を補ふのか、榮養が足りぬから食事を與へる、遊び場がないから幼稚園の庭で遊ばせるやうなことでせうか。家庭教育を補ふ最も中心的なものは、幼稚園に子を托すやうな家の狀態にある子供は遊び場所の問題でなく、子供として最も要求する人間的の交渉に對して飢ゑてゐるのであります。朝まだねむたがる子供を起しては大急ぎで朝の支度をすませ、勤めの出掛けに子供を預けて、その夕方歸りがけに連れ歸るのです。其の時に母親は勞れ切つて居りますから子供に何かを與へ得るよりも自身が他からの慰安を求めて居ります。それですから家庭教育として斯々と教へられないといふ事ではなく、人間的親しみについて飢ゑ切つて居るのです。この點に幼稚園の補ふべきものが向けられるべきであります。幼稚園として幼兒の生活の中心に觸れて來た專門家としての保姆のすべき事は、人間的滿足に飢ゑて居る子に滿足を與ふべきであると思ふのであります。將來の幼稚園は新令によつて全然社會的意義を新たにしたもので、お互、本當に幼稚園が普及し、其の職能を發輝するやうに希望するものであります。（きく子）

幼兒教育に對する所感

東京女高師附屬小學校　田代順之

舊任地に於て尋常一年を擔任した事が二回ある、過去を追憶して所感を述べて見やう。

級中に非常に發育のよい一人の女兒があつた、兄弟は二人だけで兄は尋五の首席といふ優秀な兒童である。家庭は父母と四人暮しで町の家並よりは餘程離れた靜かな森の中にある、兩親は非常に教育に熱心の方で、お父樣は軍隊の休みの時には時折學校へ參觀にいらつしやるし、お母樣は第一學期間位は毎週一回は必ずお顏が見えた。それはつゝましやかな何事にも綿密の方であつた。けれども決して保守退嬰的の方ではなかつた。ところがその女兒といつたら非常に保守退嬰的で、殆ど自發的に活動することがない。只管教師の指示のみを待つてゐる。他の兒童が教師の指示なしにどん〳〵雜多な作業をやりだすのが氣になつて、その方に精神を勞する傾きがあつた。家庭へ歸つて絕えず他兒童のこの積極的自發活動を氣に惱むでゐたといふことである。併し教師から何か作業を指示されると、それに關しては非常に熱心にやつてはゐた。それで色々と就學前に於ける家庭教育の樣子を聞いて見るに、女兒でもあるし附近に恰度よいお友達もないとの事で、殆ど家庭から出ることなく母の膝下で育つて來たのである。そ

して綿密な母の注意によつて總て生活をして來てゐた。家庭も至つて圓滿であり、兄も非常に從順の子供で妹にからかふといふやうな事も滅多にないらしい。それであるから、その女兒もかくまで素直にと思はれる位素直に育つてゐた。が併し一ケ月二ケ月と經つ中にどうも學習上に大なる缺陷を明瞭に現して來た。それは、

一、子供にも似はず活動性に乏しい。他の兒童が木登りしたり、肋木に登つたり、庭で相撲をとつたりするのを見ると、恰度お婆さんが心配する如き樣子で危んでゐる。裏庭の廣い芝生へ兒童をつれ出すと他の子供は蜘蛛の子を散らしたやうに嬉々として馳け廻るのに、この兒獨りは跳足で芝生を踏むのが大義と見えて戰々兢々といふ體、春日を浴びて只つくねんとこの陽氣の狀景を見守つてゐるばかり、これには私もどんなに苦心させられたか知れない。

二、直觀を根柢とした觀念が甚だ貧弱である。子供といふものは種々雜多な遊戯の間に或る根本觀念が養はれ、內面生活が豐富になつて行くものであるが、彼は母の膝下で概念を注入され、記憶を要求された點はあるけれども直觀、體驗による根柢ある觀念を得る機會は多く與へられなかつた事は疑ふべからざる事實となつて現れて來た、卽ち觀念に確實性なく明瞭性を缺いてゐた點からどうも聯想力鈍く、類化力が乏しかつた。

三、感覺の練習が不足である。第一動作が至つて遲鈍で敏活を缺いてゐた。筋肉作業をやらせて見る

に熱心にはやるが、自分で滿足するものがなか〳〵出來ない。書取をやつて見るとこの兒に限つて聞き誤りが多い。殊にダとラなどは常に間違つてゐた。計數器の球を一瞬間示して前と同數だけ取り上げ示させて見るに之も他兒童に比してどうも不正確である。

四、觀念が貧弱な結果考へる働きが誠に乏しい。考へるといふ事は觀念と觀念との間に存する關係から生れて來るものであるから具體的の多くの觀念の持合せのない子供に考へる力の足りないのは當然の結果といはなければならない。

五、表現成績が惡い。直觀が豐富に行はれゝば、そこには自ら精神力の陶冶も隨伴し內面生活が豐になつてくる。內面生活が豐富になれば表現力も伸びる、內容なしで表現は成立しない。彼の女兒の圖畫手工は勿論言語の表現も甚だ振はない。圖畫は第一學期中、野原に覺束ない、草花が二三本それに太陽がいつも輝いてゐた。手工材料があつても、砂場へ行つても何を形造らうといふ考へが浮んで來ない、私は決して表現の技術などは問題にしてゐたのではない、彼等はどんなことを意識して表現してゐるか、其の表現を通じて如何にして彼等の內面生活に觸れた指導をしやうかと專念してゐたのであるが、かうした子供には何といつても直觀によつて內面生活を豐富にする事が最大急務であると痛感したのである。

要するに此の女兒は幼兒時代大人といふ塔內の母といふ溫床を一歩も踏み出さず、か弱くする〳〵と伸びた子供である。開放された青天井の下、幼兒の世界に遊ぶ機會を失した子供であつたのである。前

記の缺陷は全然之が爲めと斷定する事は餘りに早計ではあるが少なくとも相當大なる關係の存する事は信じて疑はないのである。

級中之とよい對照として次のやうな男兒があつた。家は町の本通り近く附近は多くの子供の集り遊ぶ地域にあつて旅館といふ家業柄多くの人が出入し、兩親は繁忙の上子供の敎育といふことは考へない譯でもなかつたらうが、手は屆かなかつた。又餘り敎育的見識あるとも見られなかつた。隨つて懇話會にでも特と懇話する機會を得なかつた位である。兄弟澤山あつた。家庭に於て喧騷であれば小使錢を與へて外出させる事も屢々であるとは子供が言つてゐた。買喰などは平氣なもので往來で私の目にも觸れた位。活動寫眞なども折々見てゐる。躾が粗野で朝洗濯した着物を着せて出せば夕には泥まみれとなつて歸る位は平常である。田甫や、小川に魚取りもよし、泥水に水浴はやる、山に・野に・至る處附近廣範圍に亘つて彼の遊び庭ならざるはなしの有樣であつた。遊び友達と喧嘩をすることも珍らしくもなかつた、併し彼自身の性質は決して偏屈ではなかつた。至つて淡白な明るい兒であつた。かくして野育ち同樣にして幼兒期を過して來た彼は字も知らなければ、數へ方なども碌々知らなかつた。併し次の樣な特異點は明瞭に現はれてゐた。

一、斷片的、部分的ではあつたが非常に豐富な觀念を有してゐた。敎室に於て型にはまつた學習をやらせたら、或は彼は劣等生に見えたであらう。併し彼等の生活を重視し、之を發展させ敎育的見地より

指導して行くといふ立場を取るに於ては確に彼が生活內容が豐富であつたゞけ、それだけ指導上良好の狀態に在つた事は見逃すことが出來なかつた。直觀體驗を根柢として產み出された其の觀念には確實性があり明瞭性があり、理解力を容易ならしめてゐた。平生敎室內での暴れ者も、私の話を聞く時の態度といつたらそれは實に眞劍なものであつた。彼は机の上まで乘り出して聞いてゐる。そして話の內容が自分の體驗を呼び起し想像の刺戟となつたやうな場合は自分を忘れて敎卓へ飛び出してくる。その感激の表情話の內容にとけ込んで他に何物もない純眞の態度、彼は話の理解想像に於ては決して他兒童には劣らなかつた。

二、野性は滿ちてゐた。生き物を見れば捕へて慘めて見る。果物は何でも取つて見たい。芽や花は手當り次第摘み取るといふやうな事は平氣であつた。私は此の野性を無暗に奪ひ去らうとはしなかつた。そこには必ず伸ぶべき萠芽が存在してゐるからである。其の芽に培ふことが、本當に彼の生活を指導する所以で、彼も軈ては矢鱈に生き物を殺したり、果物や草花を勝手に摘み取る事はしなくなつた。けれども彼の活動性は決して鈍らず益々發展して行つた事を思ふ時、私は少なからず愉快を感じたのであつた。

三、觀察力が鋭敏であつた。物を發見し之を捕集することには妙を得てゐた、それは生物などの運動法を至細に觀察してゐる結果であることが其の說明によつてわかつた。私は或時草叢で遊んでゐた兒童

を呼んで蝶は花にとまつて何をしてゐるか見て來るやう命じた。ところが、此の兒は暫く影を見せなかつたが軈て勇み立つて歸つて來た、彼は確に簡狀の口器を觀察して來たのである。彼は花間に踞つて遂に觀察し得た事を報告してゐる、又町中を引卒して通過した後尋ねて見ると道の分岐點とは必ず何か觀察して置くのには驚いた。之等は彼が兄などに伴はれて道に紛れた際などに養はれた注意力、觀察力であらうと肯かれた。

三、表現は上手ではなかつたが、斷片的には巧であつた卽ち言語方面の發表は下手であつたが、表情を以て表現することは巧であつたのである。直觀に基く其の表現は常に確實性を持つてゐた。圖畫手工の如き構成的表現は最も拙劣であつたが、構成の意識內容はなか〳〵豐富であつた。

四、其他思考力、記憶力、想像力など可成茅を出してゐた樣に思はれた、特に彼の意志の强かつた事は彼が幼兒時代遊び廻つてゐる間に餘程養はれた點が觀察された。

それで第一學期間に於ける學科課程の成績は劣等の方であつたが、二學期、三學期と進むに隨つて成績が向上し學年末には中位にまで進むでゐた。

此の二者の例は極端と極端の對照で「過ぎたるは及ばざるが如し」の譬に洩れず何れも可なりとする譯には行かないが、幼兒の敎育上多少の參考になりはすまいか、良家の子弟が餘りに大切にされて幼兒自然の道程を踏む機會を失つて終ふ樣なことがあつては甚だ遺憾な事であると思ふ。子供は或點に於て

總て平等無差別である、教育的見地から多少考慮を要すべき點がありはすまいか。私は幼稚園教育等に於ても世間で見るやうな程度の高い、兒童の無理解な遊戯　童謠や童謠踊りを教へて大人だけが滿足してゐるのではどうかと思ふ。もう少し幼兒の自然に歸つて直觀、體驗を基礎とした生活をさせたいと思ふ、大人の考へる概念の注入などは百害あつても、一利なしと謂ひたいのである。圖畫の先生の話を聞くと尋常一年に入學した兒童の中、圖畫の天才とか期待を持つた兒童が學年を追つて味のないものを書き却つて下手になつて終ふやうなのがある。これは意識の伴はない技術の暗記であつて、非常に障害になる。そうしたものが本當に伸びるには其の技術の殼を脱ぎ捨てゝ、個性に立ち歸つてスタートした時であると面白い事を聞いた。

群馬縣保育會總會

十月十七日、　館林小學校附屬幼稚園にて

一、實地保育參觀批評

二、新幼稚園令について、　倉橋惣三氏

縣内公私立幼稚園保姆諸君會合盛會であつた。

幼兒の辨當

青木醇一

幼稚園に於ける晝の食事は幼兒にとつて此上なく樂しい、そして愉快な時間であると聞いて居る。さもある可き事である。

食物は云ふまでもなく人の生命の糧であり、日日の生活作用の源泉である。それに小兒は發育及其他の關係で食物に對する欲求は成人に比して遙かに强いものがある。幼兒が常に食物をせがんで止まないのも實に此の生理的要求によるものと云つてよい。幼兒が辨當の時間を喜ぶのも誠に當然の事と云ふべく、又幼兒の爲めに晝食事を樂しく愉快にさせる事は、幼稚園に於ても特に大切な事と云はねばならぬ。

一般に幼兒又は學童の辨當を見るに、榮養の點もよく顧慮し、調理の上にも母の愛のこもつた良い辨當も少くはないが、又家庭で幼兒の辨當については少しの注意も拂はず、榮養の點に關しても何等の用意のないものも少くない。或は又辨當は一時凌ぎのものと考へて、分量も極めて少く副食物にも意を用ゐず、到底幼兒の食欲を充分に滿す事の出來ぬものも多い樣に思ふ。成人は既に發育を完了し、その抵抗力も幼兒に比して著しく强いから左程の用意を要せずとするも、未だ幼弱な、發育してある幼兒では到底成人と同一には考へられない。幼兒の健康とその可良なる發育を希ふな

らば、何時の辨當にも細心の注意を拂ひ、僅かの勞と手數とを厭ふ可きではない。

辨當の調理上大切な事は、家庭で幼兒の榮養に關して相當の理解をもつ事である。倒へば小兒は發育及び皮膚面積の大さの關係から大人に比し比較的に食物需要量の大きいこと、又發育の開係から特に蛋白質やヴィタミンを多く要すること、或は又消化機能の弱いこと、卽ち乳齒の咀嚼力は永久齒に比して著しく劣れること、及び幼兒の胃腸はまだ充分の鍛錬を經て居ないこと、などは特に心得ておくべき點である。又養素の點に就ては蛋白質、脂肪、含水炭素、鹽類、ヴィタミン等が一方に偏せず適當に配合される事が特くに大切であるから、食品の選擇に當つてこの點に注意する事が必要である。而して幼兒に適當な食品としては、蛋白質と脂肪とは鷄卵、魚肉等によるが最もよい、又牛、鳥肉の如きも軟かければ幼稚園期の小兒にも充分之を消化し得らるゝ故時に小量を用ひてよい。通常魚肉その他の肉類は適量を用ふるとして一日一回で充分である。それ故辨當には朝夕の献立を考慮して適宜にこれを取捨すべきである。野菜類は馬鈴薯、甘薯、菠薐草、人參、大根、里芋唐茄子、隱元適宜に用ふるがよい。幼兒は一般に食物に對して好惡が多い、殊に野菜類を全々攝取しないものもある、漸次矯正して行く必要がある。食品の選擇と共に其の調理にも注意が要る、大人の嗜好によらずして幼兒の嗜好を顧慮する必要がある。必ずしも美食である事を要しない、又多くの手數をかけるにも及ばないが、野菜の一片にも母の慈愛のこもつた調理が望ましい。

今一、二の實例に就て見るならば、幼兒の辨當として屢ば用ゐられるジャム附パンの如きは、簡便ではあるが、養素の欠陷を免れない、それ故これのみ連日に亘る事は好ましくない。パンを用ふ

るならばジャムに代ふるにバタを以てしたい、バタは消化の容易な脂肪であるのみならず、ヴイタミンAを含有する點に於て價値がある。ヴイタミンが小兒の發育上に又は其の抵抗力を增す上に必要な事は敢て云ふまでもない。又ジャム附パンを用ふるならば出來得べくば多少の副食物を附加したい、鷄卵に食鹽の小量を添へればこれによつて蛋白質、脂肪、ヴタミンA等を加ふる譯である。又米飯に福神漬などは極めて簡單ではあるが良い辨當とは云へない、敢て多くの手數と費用とをかけずとも僅かに燒豆腐の一、二片と人參、菠薐草等の小量を加ふれば、蛋白質及ヴイタミンABC等を加へて遙かによい辨當になる。勿論米飯に福神漬も時にとつて惡いとは限らない、家庭の忙しい事もあらう又幼兒をして粗食に堪へる習慣を養ばしめる事も一面に於て大切な事である。しかし養素の不足な辨當を毎日用ふる事は、幼兒の健康上寒心すべき事である。又鷄卵、魚鳥肉等の如き蛋白質を主とした、食品のみを滋養品と心得これ等にのみ偏するのも戒むべき事である。野菜類を適宜に用ゐて鹽類、ヴイタミン等の補給をはかる事を忘れてはならぬ。蛋白質は幼兒には殊に必要であることは云ふまでもないが敢て多きを要しない。蛋白質食が多いと幼兒は屢ば便秘に陷る事がある、かゝる際殊に野菜類を充分に與へて便通を整へる事も必要である。

尙辨當には日々適當の變化が欲しい、同一種のもののみでは單に飽きが來るのみならず、兎角ある種の養素に缺陷を來し易い。尙辨當の容器は常に清潔にしよく乾かしたものを用ひなければ溫暖の節には腐敗を早むる恐れがある。

次に食事に際して善良の習慣を養はしむる事が大切である。第一によく咀嚼する習慣をつける事が肝要である。幼兒は一般に咀嚼が拙劣である、

殊に幼兒によつては殆んど咀嚼せずに食物を呑み込む樣な傾きのあるものもある。勿論これは家庭でよく敎ゆべき事であるが、幼稚園に於て特に注意すべきである。云ふまでもないがよく咀嚼すれば食物は細かに碎かれ唾液がよく混ずる、從つて澱粉質の消化はよくなる、又胃消化が著しく容易になる。又咀嚼をよくする事は齒を健康に保つに良い手段である、乳齒はとかく齲齒になり易い、よく齒を使つて丈夫にする事が必要である。次に食事前には必ず手を洗ふ樣に敎へたい。幼兒期には傳染性の病氣が殊に多く、そしてこれが手によつて媒介される事も少くない、それ故いつも食事の前には必ず手を洗ふ樣に習慣づけたい。又食後にはよく含嗽して口腔を清潔にすべき事も敎へておきたい。

辨當を食べる時には團欒して愉快に食べさせたい、面白いお噺でも聞かせ乍らゆつくり食事する樣にさせたい。消化液の分泌が人の精神作用に著しい關係のある事はよく知られた事實である。食事を樂しく攝取すれば胃液の分泌も盛になり消化もよくなる。不愉快な狀態で食事をする場合には食慾も出ないし、消化液の分泌も鈍り自然食物は不消化になる、よく知られた事ではあるが注意すべきことである。

寒冷の季節に向ふにつれ辨當は冷くなる。幼稚園では適當な保溫裝置をなし辨當を溫めてやる必要がある。辨當が冷くなると著しく食慾を減ずる又消化が惡しくなる。澱粉を消化する唾液中のプチアリン、蛋白質を消化する胃液中のペプシン等の酵素は、適當な溫度に於てよく作用するも餘り低溫では、その作用が著しく衰へるものである。又寒い季節に冷い辨當を食べると、幼兒は身體まで冷えて來る。辨當は是非適當に溫めておいてやらねばならぬ。

食事の際には、湯又は冷水の用意が勿論必要である。幼兒は水分を要求する事は大人に比して著しい、殊に運動の多い時は渴を感ずる事も多い。極く寒い季節には溫湯を用ふるがよいが、その他の季節には冷水がよい、尤も井水は一度煮沸したものを用ふるが安全であるが、水道の設備のある處では冷水そのまゝ用ゐてよい。却つて冷水が幼兒の嗜好に適してる。食事の際以外にも水は適當に與へてよい。水道栓等より飲用する時は備へ附けの共同の茶碗を用ゐずに各自のものを用ふる樣にしたい。

東京市幼稚園奬學講習會

十月廿六日、　廿八日、　卅日

中山文化研究所にて

一、觀察に就て　　倉橋惣三氏

市內保姆諸君會合、盛會であつた。

三十一

柿

東京女高師助教諭　大岩金

裏の畑の柿の木にも鳥が訪れる氣候になりました秋の果物と申せば先づ柿を思はせます。苹果の紅に葡萄の琥珀色に熟したものはまだしみ〴〵と秋を思はせるまでにはゆきませんでせう。

今回は方面を變へまして原産が東洋であり、特に我が國が最も栽培に適して居り、栽培區域も他の果物に比べて廣く南は九州の端から北は青森に至るといふ我が愛好する柿に就て少し申し述べてみやうと思ひます。

柿は前に申しました如く、唯單に秋を思はせるといふ感傷的な方面のみでなく是をよく玩味することによつて益々その眞價を認めることが出來まして諸種の果實中相當貴重な位置を占めて居ると存じます。

左に柿の長所と思ふ節を列擧してみますれば、

一、土地にあまり適不適のないこと。
二、樹齡の長いこと。
三、病蟲害にかゝることの少ないこと。
四、葉の紅葉したのが美しいこと。
五、實のおいしいこと。
六、觀察させる時間も連續してゐるし、又多方面であることなどであります。

こゝに一つ短所とみるべきものは枝が割合に脆くて折れ易いことでありますが、反對には果實を

採集する時に好都合であります。

私共はこの日本固有の柿を充分に優良な果物として種々の方面に利用致しまして、子供達にも秋の果物と云へば、第一に柿を思ひ出させる位にしたいものと存じます。やゝもすれば、柿は不消化で子供には絶對に與へてはいけないなど聞くこともありますが、是はもはや過去のことでありまして、現今では科學及び化學の進歩に伴ひ我が柿に於ても優良な品種が澤山出來まして、不消化等のことはないばかりでなく、反つて食物の消化を助けることが少なくないとさへいはれて居ります。即ち著聞集に「霜おけるこねりの柿はおのづからふくめば消ゆるものにぞありける」とよんで古くから珍重せられたものでありますが、今となつては尚更のことであります。但し未熟なもの、傷の付いたもの、新鮮でないものなどの場合には腹痛下痢などを起すことがありますのは申すまでもありません。

氣候と土質

柿は性質が嚴塞を厭ひますので、北海道のやうな所は是の栽培に適しませんけれど内地では到る所によく生育するものであります。

土質も他のものに比べまして好惡が少なく、ほとんどどんな場所にも育ちます。只生育の狀態や結果の數量や、品質等の上に影響することはまぬかれません。それ故に適地と申しますれば砂礫の交つた、排水のよい、肥沃な土壤にこしたことはありません。しかし家族本位の庭と致しまして、趣味と實用とを兼ねた庭園樹木の一種として、一二本を植ゑますやうな場合にはさして場所をえらぶ程のことはありません。特に一二年性草花などゝ異なりまして年と共に段々に丈高くなりますから始めの内は少しは日かげになつて居りましても次第に日にも當るやうになりますので、日かげの

ために枯れてしまふやうなことはありませんからまづ木の高さも相當に大きく育てると致しまして垣根の一隅とか後庭などに植ゑておきまして、所謂柿の鈴成りをめでるやうにあしらつてはいかゞなものかと存じます。

品　種

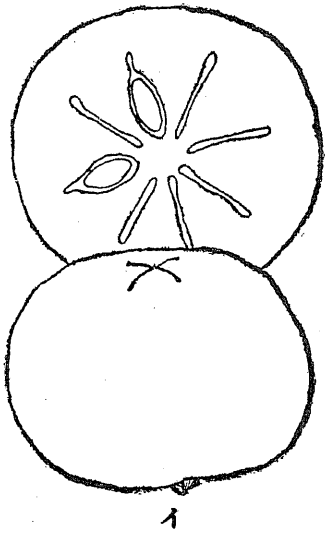
柿は古くから我が國で栽培して居りましたものでありますから從つてその品種も誠に多く、數百千にのぼつて居りますが、中には地方によりまして異名同種のものもあります。そして先づ大別致しまして是を甘柿種と、澁柿種とに分けるのであります。しかし青森などの如く柿の成熟期になつて大變に寒くなるやうな場所に栽培致します時は甘柿でも、完全に脱澁しないことがあります。さて私共はそのいづれをえらんだならばよいでせうか。前地方に於けるが如く甘柿を植ゑましても脱澁しない所は別と致しまして、どちらでもの栽培に適して居ります所でありますならば甘柿にした方がよいかと思ひます。それも家族が大人ばかりであるならば強ひての問題ではありませんが、子供本位に植ゑますならば、子供は花が咲きましてから收穫する迄にはどんな長い思ひで待つ事でせう。色がつき初めてからでも容易な辛抱ではないだらうと思ひます。」お母様いつになつたら食べられますか」の催促もよもや、一度二度ではすまないだらうと思ひます。それにやうやくもぎとつた赤い實がまだ〳〵このまんまでは食べられないやうではもうこれまでの柿に對する興味は半減される位のものではないかと思ひます。只今はその意味で、甘柿種の優良な品種と認められて居るもの丶内の二三種に就て少し記しておきます。

一、甘柿種

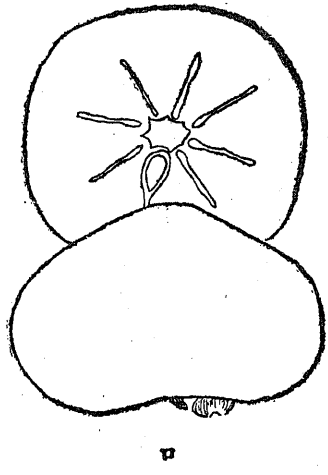
イ、富　有

果形　扁圓

色　紅色
重量　六七十匁乃至百匁
果肉　黄赤色で褐斑はない。
味　水分が多くて高尚な甘味がある
又食べて殘滓を止めない
熟期　十一月頃
樹勢　丈夫で豐産である。
富　有（二分ノ一實物大）



ロ、御所
果形　扁圓で其の四邊に微かな四條の凹所がある。
色　紅色
重量　四十匁内外
果肉　淡黄紅色で褐斑はない種子も少ない
味　風味がよい
熟期　十一月頃
樹勢　丈夫で豐産である。
御所（二分ノ一實物大）



ハ、次郎
果形　扁圓で淺い縱溝がある横斷面はやゝ

方形である。

色　紅色

重量　七八十匁

果肉　微黄白色で褐斑は極めて少ない

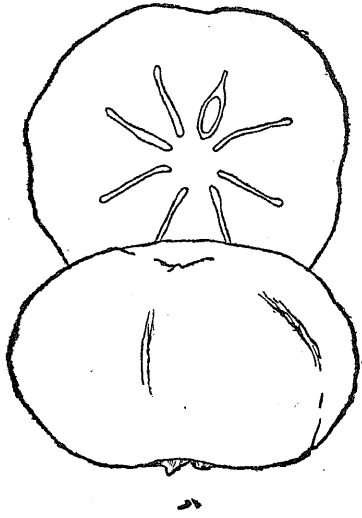
柔軟で種子も少ない

味　甘味が強い

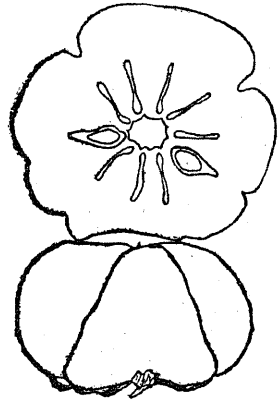
熟期　十月下旬

樹勢　丈夫で豊産である。

次郎（二分ノ一實物大）



その他東京地方で最も多い、而も甘柿の先驅をしますもので禪寺丸と申しますものが早くも十月中下旬には枝もたわゝに秋の小春日和にてりかゞやきます。枝ごと束ねて店頭に吊してありますのはこの種類が多いのであります。尙この外に普通に目につきますものに四谷（ヨタニ）、甘衣紋など申すのがあります。



四谷

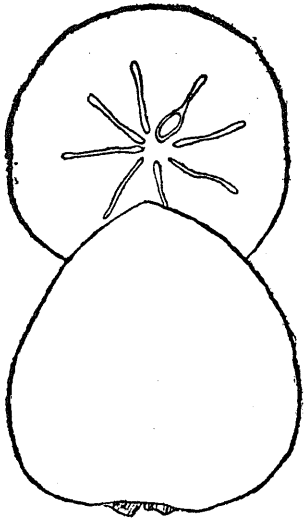
（二分ノ一實物大）

甘衣紋

（二分ノ一實物大）

二、澁柿種

澁柿種の中で最も優良なものとして知られて居りますのは、富士と蜂屋でありませう。尙不身知（ミシラズ）、横野柿、西條なども相當に有名なものであります。



富士（二分ノ一實物大）

（本文中の圖は「園藝叢書柿栗栽培法」に依る）

蜂屋

（二分ノ一實物大）

柿としての妙味は是等の澁柿を脫澁致しまして味はふ所に存するかとも思はれます點がありますからその簡單な樽拔きの方法を記しておきます。

普通には酒の空樽の新らしいものゝかゞみを打拔き此の中に澁柿を丁寧に並べて段々とつみ重ね後にかゞみを舊の如く篏め目張りをして、之を室內の溫暖な所におくのであります。かく致しまして七八日もたちますれば全く脫澁するのであります。けれども之に要します日數は柿の品種や、熟度等によりまして一樣ではありません。

栽培法

イ、苗木に就て

柿樹は通常實生によつて砧木を作り、之に接木をするのであります。接木は多く居接といつて、砧木を適當の場所に植ゑておき是を掘りとらないで、接木するのであります。柿にこの方法をとりますのは、柿は莖や根の發育が割合に緩慢でありますから、是を掘りあげなど致しますれば根を痛め從つて養分を吸ひあげることも困難になりますためひいては活着が惡いといふことになるのであります。それで私共素人が致しましてはなか〳〵柿の接木はむづかしいものでありますから接木の練習をしやうと云ふのならばともかく、柿の苗をと是非望みますならば確かな種苗店から求めた方が安全で却つて經濟かと存じます。即ち一本十五錢位も出しますれば、富有でも、次郎でも求められます。普通には桃栗三年、柿八年とはよく聞きふるした言葉ではありますが、接木した苗でありますと四五年目にはそろ〳〵一つ二つゞゝ實を結ぶものであります。小さい木にこの數少ない、赤い實は又一段と秋の風情をそへるでありませう。

剪定法

私共は柿を庭に植ゑまして、實を得ますと同時に是によりまして少しでも庭の裝飾となり、子供の美的感情を養ふ助けとなれば、それがなによりだと思ひます。それ故にさして面倒な整枝や、剪定はしなくとも家人の好みによつて樹形を整へてゆけばよいのでありますが、一通りの剪定法を述べておきます。それによりまして少しでも、よりよい實を年々收穫することが出來まして新鮮な上に家族の手によつて得られました、果物を食膳に上せますならば、又一家の和合團欒の助けともなりませう。

柿は隔年結果をするのが普通であると考へられて居るのでありますが、是は即ち剪定をしないで

放任しておくからであります。それには先づ結果の習性から申さなければなりません。

柿の果實は本年發生の新梢中發育のやゝ盛んなものに結ぶものでありまして、此の新梢は自然の場合には、前年發生した枝の頂芽と是に次ぐ二三の腋芽の伸びたものであります。そして、本年結果致しました枝は果實のために樹液を澤山に消費致しますために、この果枝上の芽は翌春は發育致しましても、結果枝とはならないのであります。それ故に本年結果致しました枝は短かく剪定し、本年結果しなかつた枝にある芽を丈夫に發育させるやうにするのであります。そのために柿に限り枝ごと折れと申しますのは自然に剪定の理に基いて居るのであります。

施肥

從來は特別に肥料など施しては居ないやうでありますが出來ますならば、一年一回丈でよいのでありますから、二月から四月頃までの間に他の庭木に施肥する、その序に施してほしいものであります。その最も得易いものを紹介致しますれば、窒素肥料として人糞尿、燐酸肥料として米糠、加里肥料として藁灰を用ひればよいのであります。そして施し方は、是等のものをよく混交致しまして、幹の太さの三四倍の直徑の圓を幹の周りに一尺幅位に、深さ五六寸に掘りました中に入れ、又その上を覆土しておけばよいのであります。是を草花栽培の施肥に比べますれば極めて簡單であります。

幼兒と柿

先づ柿につきましては、草花のやうに下種してやがて發芽し二葉の頃から「これなーに」と聞かれて「これはきれいなお花が咲くのですよ、ふまないで大事にしてやりませう、今にきれいな、お花が咲きますよ」と云つた具合にその年、直に開花

をみることが出來ませんから、種子の下種から順次に直觀させる事は困難かと存じますが、私は落花の頃から是を利用したらどうかと思ひます。卽ち開花は五月中下旬でありますから、その頃は氣候といひ、日あしの長いことから申しましても幼兒は常に戸外にあつて、なにか遊びごとの材料を求めて居るのであります。それ故に砂場に遊んで飽き、ぶらんこ、おすべりなども一通り終つて、次にはお散歩、それも餘程つかれて、しばらく木蔭にいこはんと致します時柿の葉かげにでも集ひまして以下に述べますやうな、お遊びは如何なものでありませうか。

花から申しますと、色こそさまで人目を引く程のものでなく、淡黃、白色、の筒狀花でありますが滿目に散つてゐる柿の落花には自ら目を止めずには居られませんでせう。是を休みながら拾ひ集めて散歩の途中、或はそのあたりでとつたクローバや、その他の雜草にとほさせてもよいでせう。又各々に柿の葉を一枚づゝも與へますならば、これこそ器の代用になりませう。とやかく指圖しなくてもこの落花の場所に伴れる丈で、子供等は嬉々として夫々の遊びをすること丶思ひます。或は是をお土產にするものもありませう、或は又之を首飾りにして遊び、腰に付け、或は帽子飾りになど樣々でありませう。かくするうちに柿の花に就ての觀念もおぼろげながら、何物かをにぎることが出來ませう。そして又之に興味を持ちます時は又々この木かげによる事を一つの樂しみとし、折々來る毎に或は雌花の下部の子房がふくらんだのに氣がつき「これなーに」ときくものもありませう。やがて後には實になつて落ちませう。青い小さい柿の實、これこそ幼兒にもたとへられませう。柿の赤ちやん、これも又何かのお遊びの材料になると思ひます。おまゝごとにも用ひられませう。

お砂場遊びの賓さがし代用にもなりませう。こうした青い實も段々と日のたちますにつれて、次第に大きいのが落ちるやうになります。そして、數が少なくなつて參ります。とやかくするうちに暑い〳〵土用もすぎ、初秋ともなり日あしは以外にも早くまたゝく間に、秋ももゝなかになつてしまひます。鎮守の森も色づいて參ります。春の花時から待ちに待つた柿の實もやうやく熟しました。手に手をとつてのお散歩、今度こそは葉ごしにもれる太陽の光りをあびながら、猿かに合戰のお話しなど聞かせてやりますならば、尙一層興味あることゝ思ひます。又春から初夏にかけては草花の多い時でありますから、お遊びの材料にも自然その方の供給が多かつたことゝ思ひますが、秋も更けるに從ひ、段々數少なくなります。この時に色も美事な形も簡單な而も、本邦原產の柿これこそ眞に、子供に與ふべきものでなくてはなりますまい。手にした子供は曾ての日にあの花であつたものが、今日は、こんな立派な實になつた、うつりゆく自然の妙理に自らおどろかされるでありませう。形の簡單なこの柿は先づ、見て塗り繪のお手本にならないでせうか。先生が形をかいて下さらなくても、寫生が出來さうに思へます。色もチョークでぬれませう。又粘土細工でも作れさうです こうして終りに切つておまゝごとなどゝ子供に緣の少ない私が考へます。以上にまだ〳〵利用される所が多々あることゝ思ひます。

創作童話

『チユンチユク小雀』

中村楠雄

こんな川が流れてゐますよ。この川のこちら側に、竹の一つぱい生えたお藪がありました。（略畫で示しながら話を進行する）川の向ふ側にもお藪がありました。

どちらのお藪の中にも雀さんのお家が澤山たつてゐます。こちらのお藪の中にね、チユン一さんチユン吉さん、チユン太郎さんと云ふ、三羽の未だ小さい雀さんがありました。三羽共小さい雀さんですから、皆さんが毎日幼稚園へいらつしやる樣に、やつぱり毎日雀さんの幼稚園へ行つてゐました。

其中でチユン一さんと、チユン吉さんとは、喧嘩ばかり致します。どちらも大變ないたずら者ですから、二羽どうしが喧嘩するばかりでなく、隙さへあると、他の雀さん達にも、いたずらをしかけては喧嘩を致します。雀さんの先生も、チユン一さんと、チユン吉さんを、何べんもお呼びになつて、おしかりになつたり、お訓へになつたりなさいますが、どちらもちつともお言附を聞きません。

所がチユン太郎さんは、それは〳〵やさしい、そして賢い雀さんでありました。ちつとも喧嘩なんか致しません。チユン一さんや、チユン吉さんが、いたずらをしかけて來ても、少しも相手にな

りません。毎日チュンチュク〳〵鳴きながら皆んなと仲よくお遊びを致して居りました。

或日チュン太郎さんは、幼稚園からお家へ歸つて來ますと、

「チュン太郎さんや、すみませんがね、これを向ひの籔の叔母さんの所へ持つて行つて頂戴」

と言つて、お母さんから風呂敷包を渡されました。

チュン太郎さんは

「ハイ」

と、素直にお返事して出かけやうと致しました

するとお母さんは、後から呼びかけて、

「チュン太郎さん、道でね、お友達などゝ喧嘩をしてはいけませんよ。どんな事を言はれても、手向ひせぬやうね。分つたらサア行つておいで」

とおつしやいました。

チュン太郎さんは元氣よく、出かけて來ましたが、ソレ、チュン太郎さんのお家のあるお籔と、向ひの叔母さんのお家のあるお籔との間には、この川がありませう。（川をつき示す）それでこんな橋がかゝつてゐるのです。（橋を書き添へる）この橋の上を渡つて、今チュン太郎さんは、この向ひ籔の入口の所まで來ました。

さうするとね、籔の入口に小雀さん達は、何羽も遊んで居ります。そしてチュン太郎さんを見ると、

「ヤア、チュン太郎さんが來た、チュン太郎さんが來た」

と誰かゞ叫びました。

すると又誰かゞ

「この籔の子でない子には、とほせんぼうをしてやらう」

と申しました。

すると皆んながサアッと、お手々をつないで、こんなに歌ひ出しました。

赤い〳〵ほうせんくわ
白い〳〵ほうせんくわ
其の中くゞつて
　　通りやんせ
赤い花ちるよ
白い花ちるよ
いや〳〵お前は
　　通しやせぬ

北原白秋歌
弘田龍太郎曲

土川五郎氏「遊戯の歌と曲」(18頁)

そしてちつとも通してくれません。チユン太郎さんは困つてしまひましたが、何べんか

「そんないぢわるをせないで、通して頂戴」

と言つてたのみました。

すると其の中で、一番大きい樣な雀さんは、

「そんなら僕の胯をおくゞり、そしたら通してあげやう」

と申します。

チユン太郎さんは、仕方がないから、その云ふ通りに胯の下を、くゞりぬけました。皆んなは一度にドッと笑ひました。それでもチユン太郎は知らぬ顔をして、サッサッと叔母さんのお家の方へ行つてしまひました。

そして歸りには、叔母さんは橋の所まで送つて下さいました。

それから二三日たつての事です。チユン太郎さんのお父さんは、

「チユン太郎、このお手紙を叔母さん所へ、持つて行きなさい」

とおつしやいました。

チユン太郎さんの事ですから、

「ハイ」

と御返事をして、お父樣から渡された御手紙をしつかりと持つて、すぐに出かけました。そしていつもの橋を渡つて、この向ひの籔の入口へ來かゝ

りました。すると又どうです。この間いぢわるの小雀さん達は、大勢遊んで居るではありませんかチユン太郎さんは

「困つたなあ」

と思つたけれども仕方がありません。それでだまつて其處を通りぬけやうと致しました。

其の時誰かゞ

「ヤア、またチユン太郎さんが來たッ」

と叫びました。すると皆んなが口々に

「チユン太郎さんだ、チユン太郎さんだ」

「とほせんぼう、とほせんぼう」

「胯くぐりのチユン太郎さんだ」

「ウワア、ハ……」

などゝ、やかましく笑ひたてました。

そして皆んなが代るゞ邪魔をして、チユン太郎さんを向ふへやつてくれません。けれどもチユン太郎さんは、少しも怒らずにまた

「いぢわるをせないで向ふへやつて頂戴、この手紙早く叔母さん所へお屆けせねばならないから」

と申しました。さうすると其の中の、また一番大きい樣な雀さんは、

「そんなら私のお馬におなり、そしてあすこの太い竹の所まで行つたら、通してあげやう」

と申します。仕方がないから、また其のとほり致しました。

叔母さんにお手紙を渡して、橋の所へ戻つてきましたが、もういぢわるの子雀さん達は、居ませんでした。そしてね、ヤレ〳〵と思ひながら、橋の眞中頃まで來ますと、おかしなおぢいさんに出會ひましたよ。眞白いおべゞを着て、ニコ〳〵と笑つてゐます。チユン太郎さんは一寸おじぎをしながら、だまつて行き過ぎやうとしますとね、

「モシ〳〵、チユン太郎さん」

と呼びかけました。

「ハイ、何か御用ですか」
「あなたは此間お母さんのお使ひで、向ひの叡の叔母さん所へ、何か持つて行きましたね」
「ハイ」
「そして、いぢわるの小雀さん達に出會つても、ちつとも喧嘩をしませんでしたね」
「ハイ」
「今日はお父さんのお使ひで、お手紙を持つて行きましたね」
「ハイ」
「そして、今日も其の、いぢわるの小雀さん達に出會つたが、喧嘩をしませんでしたね」
「ハイ」
「幼稚園でも、少しも喧嘩をしませんね」
「ハイ」
「このおぢいさんは、よく知つてゐませう。今日はね、あなたがお友達と少しも喧嘩をせずに、大變おかしこいから、御褒美を持つて來てあげましたよ。ソーラお手々をお出しなさい」
と言つて、おぢいさんは懐から、ピカッと光るものを取り出しました。何かしらと思ひながらお手々を出して頂戴して見ますと、それはね、金色の小さいお笛でした。チユン太郎さんは、本當に嬉しうございました。
「おぢいさん、ありがたうございます」
と御禮を申上ました。そして向ふへ行かうと致しますと、
「チユン太郎さん、其のお笛はチユン太郎さんにあげますがね、毎日々々吹いてはいけないのです、チユン太郎さんが困つた時、難儀な時にお吹きなさい。さうすると私がすぐ、チユン太郎さんの所へ行つてあげます」
とおぢいさんが、おつしやつたかと思ふと、もうずんずん橋を向ふへ渡つて行きます。

それでチユン太郎さんも橋を渡つて、自分のお家の方へ歸つて參りました。それからチユン太郎さんは、其のお笛を大切にして、寢ても起きても、何時でもポケットに入れて持つて居りました。

或晩の事でした。それは夜の何時頃か分りませんが、チユン太郎さんはパッとお目をあけると、サア大變な事が起つて居ましたよ。チユン太郎さんのお籔も、向ひのお籔のも、何千とも分らぬ位澤山の雀さん達は、一度にパッと飛びたつて、さも恐さうにチユン〳〵と烈しく鳴きながら、何處かへ逃げて行かうとしてゐる樣です。澤山の雀さんは一度に飛びたつて、烈しく鳴いてゐるのですから

「チユン〳〵、ゴーゴー」

と、まるで雷なりの樣な音をたてゝゐます。チユン太郎さんはびつくりして、おうちから飛出しました。そしてチユン太郎さんも逃げやうと致しましたが、チユン太郎さん達は夜はお目々が見えません。それで逃げてよいのか、惡いのか、又どつちへ逃げてよいのか、さつぱり分りません。チユン太郎さんは困つてしまひました。

其時チユン太郎さんは

「アヽ、さうだッ」

と思ひついたのは、あのおぢいさんから頂いたお笛の事でした。それでポケットから其の小さい金色のお笛を出して、

「ピリ〳〵ピリッ」

と吹きました。

そして吹きやめたら、もうあのおぢいさんは、チユン太郎さんの前にピョコッと、お立ちになつてニコ〳〵とお笑ひになつてゐました。

「おぢいさん、僕こはいよ」

と申しますと、それでもおぢいさんはニコ〳〵とお笑ひになりながら

「あゝ、こはいね、でもチユン太郎さん、明日の朝になるまでは此處でぢつとして居りなさい。今ね此のお籔の外へも、向ひのお籔の外へも、こはいおぢさんが來てゐるのですよ。其のおぢさんはお籔のまはりへ網を張つて、チユン太郎さん達をとりに來てゐるのです。サア明日の朝までぢつとしてゐるのね」

とおつしやつたかと思ふと、もうお姿がなくなつてゐました。

チユン太郎さんは、おぢいさんのおつしやつた通りにぢつとして居りました。明日の朝になるとお籔の中は、大變靜かにひつそりとしてゐます。どうしたのかと思ふと、昨晩皆んな大騷ぎをした時、うろたへて大勢網にかゝつて、こはいおぢさんにとつていかれたやうです。

いぢわるのチユン一さんも、チユン吉さんも、向ひ籔の小雀さん達も、皆んなとられてしまひました。チユン太郎さんはおぢいさんに敎へて頂いたので助かりました。それから後もチユン太郎さんは、困つた事が起るとあのおぢいさんに、敎へて頂いて大變賢い雀さんになりました。

備考

1、主眼

友達と少しも爭ひなどをせぬ、素直な小雀は、不思議なおぢいさんから小さい笛を貰つた。その笛を吹いてはおぢいさんに來て頂いて、色々敎へて貰つてりつぱな雀さんになつた。

2、時間十分位。

3、注意

特別な目的をもつて創作したのですから、其つもりで改作せれらてお用ひ下されば幸甚です。

（大正、一五、一〇、五）

月

土川五郎振

一　出た出た……左足一歩左へ上體を右に傾け左上を見る、兩手を左右に開き肱を曲げ掌を左上方に向けて顔の前に立てる、顔の兩側に「た」にて右つま先にて床を打つ。

月が……右足一歩右へ上體を左に傾け右上を見る、兩手を左右に開き肱を曲げ掌を右上方に向けて顔の前に立てる。

まあるい……兩手を兩側より下、體前を上へ。

まあるい……兩手を體前上より兩側より下、體前上へ。

まんまるい……大きく兩側より下、體前上へ兩掌を向き合す。

盆の様な……兩手を下より兩側を經て頭上に圓を描き上を見る。

月が……右足一歩斜右前方に出し膝を屈し右食指にて斜右上方を指す。

二　かくれた……左向左足を出し上體を前に傾け顔を前に出し右に向け左手をあげ次に右足一歩前に顔を左に向け右手をあぐ。

くもに……同じく二歩前の如くす。

くろい……右向（内方を向く）右へ一歩……兩掌を前に向け體前にあげ下より右へ上より左へ圓を描く。

くろい……同じく右に一歩手も前に同じ。

まつくろい……同じく右へ一歩手も前に同じく「ろい」にて左方へあげて左上を見る。

すみの……左足一歩あとへ上體を後ろに傾け兩手を胸に交叉す掌は前に向ける。

樣な……上方を見つゝ兩手を七分（全く開かずして）に左右に開く（掌前に）

くも……「すみの」と同じ。

に……「樣な」と同じ。

三　また出た……右足を引き上體を前に屈し兩手を後ろに張り下を向く。

月が……右足を左足に揃へ左上方を見て拍手二回。

まあるい〳〵まんまるい兩手を兩側より上へ前より下へ再び兩側より上へと回轉しつゝ右足をあげて左足にて跳び次に左足をあげ右足にて跳ぶ、斯の如く四回にて右方より一回轉す。

盆の樣な……右足を引きて蹲踞し、兩手を兩側より頭上にあぐ。

月が……右肩を下げ、右食指を右方より下を通して左上に持來して左上を見つゝこれを指す。

月

♩=88

一、デタ　デタ　ツキガ
二、かくれたくもに
三、マタデタツキガ

マールイ　マールイ　マンマルイ
くーろい　くーろい　まつくろい
マールイ　マールイ　マンマルイ

ボーンノ　ヤウナ　ツキガ
すーみのやうなくもに
ボーンノ　ヤウナ　ツキガ

月

一、出た〳〵月が、
　圓い〳〵まんまるい
　　盆のやうな月が。

二、隱れた雲に、
　黑い〳〵まつくろい
　　墨のやうな　雲に

三、また出た月が、
　圓い〳〵　まんまるい
　　盆のやうな月が。

公園の朝

みぎり

長年の望をやつと踏み出す日が來た。

都市に於ける頻繁な交通機關。――それは多忙な都會人にとつて大きな文化の恩惠であつた。都會人と申してもそれは成人の事である、同じ都會生活をする私達の小さいお友達、幼兒にとつて、この朝夕眼くるめくような激しい街路の往來、オートバイの爆音や、自働車の警笛、自轉車、馬車、ことに交通の繁い交叉點を横切る時の緊張したまなざしを見る時、便利な都會の交通機關が子供には大きな恐畏であり、おびやかしであるといふ事を切に感じる。

幼兒の生活を戸外へ。自然へ。といふ事は私の耳にひゞく大きな聲であり、大切にされすぎて虚弱であつたり、貧血したりするお子さん方をおあづかりしてゐる現在の私としてのどうしてもさうすべき必要であり、又自分の幼い日に積わらの影でかくれんぼうをした思出から、おなじ年頃のこの、小さいお友達にも是非味はせたいねがひである。

ところが、都會生活者である故に一層切なこの希ひ、望み、計畫が、都會生活者である故に實行がむづかしい。一歩戸外へ出、街路に立てば、むかうに、オートバイの煙とひゞき、後に荷物自働車の獸のようなホーンに追はれる、この交通の恐

畏から、多數の幼兒達を、どう安全に導かうか。戸外はよい。が實行方法？よむ方はお笑ひになるかもしれないが、私にとつてはこれが長い間のつきあたりであつた。社會生活全體の利益の爲、の便利な交通機關、それを幼兒ばかしが反對に惠をうけるといふ事はないはず。私達は何とかして成人と同樣幼兒にもその惠をうけるようにしたいと希た計畫が叶て市營自働車の係りの人は私の小さいお友達の爲に、わざ〳〵一臺、ひきかへしの空の車を九丁目の停留場に其の朝用意して下さる事になつた。

學生時代の遠足の前の晩に、かつて味た經驗をそのまゝ、私は胸さわぎがして眠りつけないほどであつた。長い間の望がいよ〳〵實現出來る、ほんとうに子供のような喜びが、消しても消しても湧き上て來た。

はじめての試み。

それだけ、もし此第一回に失敗があつたら此實行は座折する。私の多勢の小さいお友達は、小さなお室の中に昔ながらに、わや〳〵と遊ばなければならない。手落があつては、成功しなくては、私の氣は張りつめてゐた。第一回の試であるから距離も短くして、市營自働車の一區間で行かれる處として場所を日比谷公園にした。試の前日、園の仕事が終てから公園に行くと廣々とした草花に羊が群れてゐた。曇り日のうすい日ざしが時々そこに訪れる、ミレーの繪を思ひ出す。「都會の幼兒はやつぱし幸だ」これはこれまで思つた事のない言葉だつた。兎は穴からのぞき、栗鼠は木の上をすべつてゐた。公園課の係りの方は、晝食のお湯まで沸して下さるし羊のゐる草地へも入れて下さるとの事にすべて感謝の外なく、あやふげな空だけを氣遣てあくる日を待つた。

一組の幼兒に受持保姆と衞生婦一人、小使一人

保姆實習生三人。「行てまゐります」お留守番の小さいお友達や先生方に、ご挨拶をして園を出たのが午前九時。九丁目の停留場まで十五分ほど、そこで少し自働車の來るのをまつた。照らず降らずの程よい日和。

「あをい自働車、黑い自働車。どつちにのるの！」

「僕お母樣と「堀の內」へ行く時、あゝいふのに乘た事ある」たのしいさざめきはやがて一臺の車の中へは入つた。

「小さい人おかけなさい、私お姉さんだからいゝの」光ちやんのいつものお姉さんぶり。自働車は公園まで直通でした。左側の町では大掃除をしてゐます。「あ、大掃除、僕の家昨日した」

「君、競走だよ、あの電車、もうぢき追ひ越すからつ、もうすこし〳〵、ほうらね、かつた、あ、」

「いゝね自働車一番早いや」

「あお玉杓子がゐる」

秀ちやんは下の下に小さく澤山うろついてゐるお堀の家鴨を春の遠足の時に行つた、お池のお玉杓子を連想してゐる。

「君あれは鳥だよ、ほら飛ぶじあないか」

「さうだね」「あゝまたとんだ」

「先生、先生、あれ井戸掘るんでしよう、四谷見附のとこにもあつてよ」

「あの梯みたいの？」

「井戸から水が出るのね」

「さうお堀の水がなくならないようにするのよ」

「いいなあ、この自働車一番早い」

九丁目から十五分で日比谷へ着きました。自働車の小父さんは、小さい人達が、無事に公園には入るまで、いろ〳〵親切に世話をして下さつた。そして歸りの車は、交番へたのんで十二時半に公園の入口に横づけといふお約束をして別れた。

まづ、皆で事務所のおぢさんの處へ「今日は」

と御挨拶に行く。丁度子供の國の繪にあるような可愛いゝ西洋館の事務所の階段の、そこにもこゝにも、うす色の大きな、あふむ、がゐて、「お父ちゃ〳〵」「今日は」と語つてゐた。

花壇には、サルビアが目のさめるような緋の色に、ダリア、コスモス、の眞盛り、靜かな朝の空をうつした水面には、睡蓮の花がゆめのような色にういてゐる。

「おゝきれい、お花がまつさかりね」

「お花見のようだ」ベンチをさして良子さんが、

「ここに腰かけませうよ先生」、「おや、もうおくたびれ？」「さうぢあないのよ、こゝにかけてお花見しませうよ」

きれいに掃き清められた公園の朝の靜かさ!!

芝生には雀が群れて、ちゝとなく。幼さい人達の足は、樂の音がなくともスキップにおどつて行く。

舊音樂堂の跡の、たくさんベンチの並んだ處で一休み、キャラメルの小い箱を各自ポケットに入れて又木蔭の道を行く。

「おゝ、いゝ香!!」鼻から、いきをしますと、あまい香が。

「もくせい、でせよ、先生つ」

「あ、こんな可愛いのがおちてゐた、」

「先生つ、上にもある、あそこに、あそこに、」

金木犀の花は盛を少しすぎて、地にもこぼれ、枝にも香てゐる。

「もくせい、僕のおうちにも、もうせんあつたのよ」

「もくせい、もくせい」はぢめてきいたのか秀ちやんは口の中でかう言ひながら、こぼれた花を拾てゐる。

「さあ、みんな、一所に向側に行きませう。こゝは公園の中の自働車の通る道だから、みんなで、

かたまつて、一緒に通りませう。」

廣い道を横ぎつて、小砂利のしきつめた小途に出ました。左はひろ〳〵とした草地、右はテニスコート。鳩小屋、くじやく、野兎のお家。

「あつ、羊！羊！先生、羊紙たべる？」

もう清さんはポケツトの紙を出して小走りに行く。今日は草地を小さいお友達にゆづつた羊のむれは、ピンクや藤色の紙のおみやげを、おいしさうにいただいてゐる。活動好きの茂さん達は早くも兒童遊園の門をくぐつて、小さい、こんま、ほどのシーソーに近よる。公園には親切な、小母さんが居られて、いろ〳〵こまかい世話をし、あぶなくないように導いて下さる。ブランコ、お滑り木昇りの木は、さすがに大きいので誰も試みようとしなかつた。お手を洗て、ひろい草地でお辨當をひらく。赤とんぼやあぶにもキャンデーをお福分けする壽郎さん。「今日はお日樣が出ないね」曇た空をあふいで幸ちやんが云ふ。ほんとうにこれで秋晴れだつたら……。それは引率者の胸にもかなり恨であつた。

あそびたらない皆をうながして公園の小母さんや小父さんにお別れしたのは豫定の十二時すこし過ぎ。自働車は約束通り來て居た。親切なそこの小父さんは九丁目をもう少し先へ行た危險のない處まで小さい人達を運んでくれた。

「小父さん、さよなら」「おぢさん。ありがたう」子供達は敎へられずとも心からこの言葉を叫びました。すべては成功であつた。K先生、H先生もこの初の擧を案じて迎に來て下さつた。

俊夫さんの指先の傷は其の日の小さい失敗であつたけれど翌日の元氣な登園によつて引率者の心は和いだ。

「また、つれてつてね、自働車で」翌日小さい人達は、かはり〳〵にかういふおねだりをした。

「さうね、又行きましようね、自働車の小父さんにたのんで」翌日の自由畫に、昨日の事を畫かなかつたのは風邪で休んだ明さんだけであつた。

よりよい、二回目の試を計畫しながら。

――十月二十四日記す――

觀察の地方色

――廣く御寄稿を乞ふ――

風あたゝかい南の國から、木枯吹き荒ぶ關東地方を經て、雪に埋れる北海、樺太の果てに到るまで、季節風土の變化の多い我國には、土地々々による觀察の地方色に面白い違ひもあることゝ思ひます。此の興味ある問題について皆樣の御寄稿を頂き誌上を賑はせていたゞき度いと存じます。貴園でのありのまゝの實際のが結構で御座います。〆切りは十一月の三十日までとして、どうぞ振つて御寄稿下さい。

（東京市本郷區、女高師附屬幼稚園内『幼兒の敎育編輯係宛てに御願いたします。）

靜岡縣幼兒敎育研究會

今回靜岡縣幼兒敎育研究會が左の通り設立せられました。斯界のため誠に欣ばしいことです。

會の規約

第一條　本會ハ幼稚園ノ保姆トシテ必要ナル知識技能ノ講習及ビ實際方面ニツキ研究ヲナスヲ以テ目的トス

第二條　本會ハ靜岡縣幼兒敎育研究會ト稱シ其事務所ヲ靜岡縣保育會事務所內ニ置ク

第三條　本會ハ左ノ會員ヲ以テ組織ス
靜岡縣下ニ於テ幼兒敎育ニ從事スルモノ
並ニ其ノ趣旨ニ贊成スルモノ

第四條　本會ノ目的ヲ達センガタメ左ノ敎科ニツキ講習及ビ研究ヲナス
一、敎育（拾五時）　一、理科（拾時）
一、保育（廿時）　一、圖書、手工（廿時）
一、音樂（拾時）　一、遊戲、體操（拾五時）

第五條　講習會ノ講習期間ハ六ケ月ヲ一期トシ繼續シテ開催ス、每期講習ヲ完了シタルモノニハ講習證書ヲ授與ス（第一回ニ限リ十一月ニ始メ翌年三月ニ終ル、講習時數ハ第三土曜日ヲ以テ補フ）
每月ノ開講日時ハ左ノ如シ
第一土曜日　自午後一時　至午後四時
第一日曜日　自午前九時　至午後四時
第三日曜日

第六條　講習會ハ當分靜岡市及濱松市ノ二ケ所ニテ之ヲ行フ
講習會員ハ會費トシテ每月金貳圓ヲ納付スルモノトス
但シ納付期間日ハ每月第一土曜日トス

第七條　本會ノ事務ハ靜岡縣保育會ノ役員之ヲ掌ル

◎注意講習ハ十一月十三日第二土曜日ヨリ開始ス、入會者ハ十一月十日迄ニ申込ノコト

申込所　靜岡市馬場町七七　靜岡櫻花幼稚園
靜岡市鷹匠町二丁目
會場　靜岡幼稚園

廣告

一、幼稚園及び小學校、家庭、育兒・看護等に關する論說調査研究等の寄稿を歡迎いたします。

一、寄稿は一行二十六字詰に記して下さい。但改行は一字下げること。また句讀點は一字あけること。

一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新刊書、交換雜誌、入會手續、更に本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內

日本幼稚園協會

注文規定

一、本誌購讀御希望の方は日本幼稚園協會に御加入下さい

居所、氏名を明記し會費前金にて東京女子高等師範學校附屬幼稚園內日本幼稚園協會に御申込下さい。

一、日本幼稚園協會會員外にて本誌御注文の方は凡て前金(郵稅共)で願ひます。(郵券代用の場合には總て一割增)

一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。

一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。

一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。

一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

定價		
一ヶ月分一冊	金參拾五錢	送料貳錢
半ヶ年分六冊	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年拾貳冊	金四圓貳拾錢	送料共

(外國行郵稅は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)

大正十五年十一月十日印刷
大正十五年十一月十五日發行

幼兒の教育　第二十六卷第十一號

編輯兼發行者　東京府豐多摩郡戸塚町大字戸塚五七五　堀七藏

印刷者　東京市牛込區山吹町一九八　大杉直次郎

印刷所　東京市牛込區山吹町一九八　大杉印刷所

發行所　東京女子高等師範學校附屬幼稚園內　日本幼稚園協會　振替口座東京一七二六六番

不許複製
禁轉載

廣告

特等面一頁	金參拾圓	二等面一頁	金貳拾圓
一等面一頁	金貳拾五圓	一頁以下御斷	

神田區南甲賀町八品田奥松に御申込下さい

最新刊

帝國教育會編纂

新今解訳 幼稚園研究

附全國幼稚園一覽名簿

四六版全一冊
定價一圓五拾錢
送料十二錢

本書は、幼稚園令の精神、沿革、解義及幼稚園の經營の實驗等に就き斯界の權威たるべき人々が分擔執筆せられたものであります。尚附錄として幼稚園令及關係法規の全文、特に新令發布現在の全國幼稚園（所在地、園主、園長名等記載）一覽名簿の添へあることは、參考資料とも亦記念ともなることと思はれます。幼稚園には是非とも備へ置く必要のある便利な書物であります。

文學博士 澤柳政太郎
東京女高師教授 倉橋惣三
文部省囑托 福士末之助
門田重雄

内容目次

一 幼稚園令制定の精神
二 幼稚園の職能に就て
三 日本幼稚園制度沿革史
四 新制幼稚園令通解
第一章 總則
第一節 幼稚園の目的
第二節 保育の要旨
第三節 保育項目（課程）
第二章 散置及廢止
第一節 總則
第二節 設置及廢止
第三章 入園年齢
第四章 職員
第一節 總則
第二節 園長
第三節 保姆
第四節 代用保姆
第五章 保姆檢定及免許狀
第一節 總則
第二節 無試驗檢定
第三節 試驗檢定
第六章 園長及保姆の進退職務及服務其他
第一節 總則
第二節 園長及保姆の進退
第三節 園長及保姆の職務及服務
第四節 懲戒處分、業務停止及免許狀褫奪
第五節 俸給旅費及諸給與準則
第七章 組制及設備
第一節 編制
第二節 設備
第八章 保育料入園料附則
五 私立幼稚園の經營
六 全國幼稚園一覽名簿

目白幼稚園長 和田實

發行所 東京市本郷區生田三番地 文化書房 振替東京二五四七三

取次所 東京市小石川區指ケ谷町一三〇 フレーベル館 振替東京一九六四〇

第一卷十六號　第十一號（毎月一回十五日發行）　大正十五年十一月十二日印刷　大正十五年十一月十五日發行

日本幼稚園協會編

幼兒用『ヌリエ』畫帖

第一編
第二編

幼稚園作業の一つとして『ヌリエ』の價値は更めて説明を要しません。ただ其の材料の選擇には多くの考慮を要することです。東京女子高等師範學校附屬幼稚園で長い間試みた材料の中から、幼兒の興味にあはせて配列編纂せられた此の書畫は、このまゝ幼兒用として與へらるゝに便利と思ふのであります。普く御使用を希望します。（第一篇は年少組用、第二篇は年長組用です）

一冊金參拾錢　送料一冊六錢

發行所

東京市小石川區指ヶ谷

株式會社フレベール館

電話小石川三六〇一
振替東京一六四〇九

幼稚園協會

定價　金三十五錢